

# 知的障害者の療育・福祉・就労に関するDVD目録

※ 貸し出し希望の整理番号を事務局にご連絡ください。  
e:mail oka-iku@kirameki-plz.com

事務局連絡先 Tel 086-226-3538

201	きらっといきる	19歳、はじめてのシューカツ	知的障害・小池睦美さん		5073-1	今回の主人公は、福島県にお住まいの小池睦美さん、19歳。知的障害があります。小池さんは去年、特別支援学校を卒業。現在は、福祉施設でパンの販売をしています。最近、大きな目標を掲げました。企業への就職を目指し始めたのです。
202	福祉ネットワーク	どう考える？”障がい者”			5073-2	政府が新たに設置した「障がい者制度改革推進本部」(本部長・鳩山総理大臣)。障害者自立支援法を廃止し、障害者支援策を抜本的に改め充実を図るためのもので、1月には障害当事者を半数以上委員にした、推進会議の会合が開かれる。この推進会議での議論は、政権の今後の障害者施策全体に影響を与えるもので、多くの障害者当事者の関心を集めている。“障害”の表記や、“障害者の定義・範囲”、そして自立支援法や障害者権利条約と国内法の整合性の問題など、この会議で話し合われるテーマとその背景を整理して伝える。
203	福祉ネットワーク	ぼくと音楽のたのしい関係	小柳拓人くん		5073-3	東京都世田谷区の小柳拓人さん(16歳)は自閉症で、落ち着きがなく集団行動や家族とのコミュニケーションがなかなかうまくいかなかった。5歳で、母親が音楽教室のグループレッスンに通わせると通常、子どもたちが苦手とする「同じことを反復練習する」といったことがピタリとはまり、みるみる上達。「その子の欠点だと思っていたことが、見方を変えれば長所になる」と、母親が気付いた瞬間だった。中学に進むと、拓人さんはブラスバンドでフルートも始め、周囲の音を聞いて合わせるなどの経験を重ね、場面に応じた行動をすることを次第に身につけていく。拓人さんの日常を紹介しながら、同世代の若者たちが自閉症や発達障害について正しく理解し、一人一人の個性を大切に生きるということを考える。
204	福祉ネットワーク	婚活！	障害者の恋愛支援		5073-4	長崎県にあるコロニー雲仙(社会福祉法人 南高愛隣会)。愛する人と暮らすことが、障害がある人にとって本当の自立につながると、6年前に障害者のための結婚推進室「ぶ〜け」を設立。知的障害者の男女の出会いから交際、結婚、子育ての支援まで、さまざまな支援活動を行っている。「好きな人と一緒に生きていきたい」。その実現に向かって行く障害者たちの思いと、デートなどで自分から相手をリードし、何を語るのか。その日々を追った。
205	福祉ネットワーク	シリーズ 新しい“障がい者制度”にむけて	第1回 “くらし”を支える		5074-1	政権交代により、大きな転換期を迎えた障害者施策。2010年1月には「障がい者制度改革推進会議」も発足し、本格的な議論がスタートした。番組では、障害者の暮らしと就労に焦点を当て、障害者自立支援法を検証しながら、新法設計への指針と課題を伝える。第1回のテーマは“暮らし”。現在の障害者制度では、支援の網から外れてしまう事例を検証し、今後の課題を提言していく。
206	福祉ネットワーク	シリーズ 新しい“障がい者制度”にむけて	第2回 “働く”を支える		5074-2	政権交代により、大きな転換期を迎えた障害者施策。2010年1月には「障がい者制度改革推進会議」も発足し、本格的な議論がスタートした。番組では、障害者の暮らしと就労に焦点を当て、障害者自立支援法を検証しながら新法設計への指針と課題を伝える。第2回のテーマは“就労”。自立支援法の「就労支援」の課題を探り、障害者自身が多様な働き方を模索している事例などを紹介しながら、今後の課題を提言する。

207	きらっといきる	「夢は居酒屋の店長です～知的障害・吉濱昌彦さん～」			5074-3	神奈川県に住む吉濱昌彦さん(32歳)は、知的障害者の通所施設である居酒屋で働いている。料理人として腕をふるう吉濱さんは、その場に応じて料理の優先順位を決めることが苦手。そこで、施設職員がタイミングを見計らって声をかける。このほかにも、店には彼の調理を支える工夫がいっぱいある。吉濱さんの今の目標は、店長になること。そのための課題に取り組む吉濱さんと、彼を支えるスタッフの姿を見つめる
208	オーケストラ 生まれ	～コバケンとその仲間たちスペシャル2010～			5074-4	“炎のコバケン”こと、指揮者・小林研一郎が、新たな挑戦を行った。障害のある人とない人がともにオーケストラの一員となって演じるというコンサート。コバケンの思いに賛同したプロアマの演奏家と、およそ30人の障害のある人たち。総勢150人が、2010年3月に東京・NHKホールで開かれたコンサートに向けて猛練習を積んだ。オーケストラの結成から演奏会までを、音楽家たちの心の交流を交えて追う音楽ドキュメント。
209	福祉ネットワーク	コバケンとその仲間たちスペシャル(1)			5074-5	世界で活躍する指揮者、“コバケン”こと小林研一郎さんが、プロアマの演奏家に知的障害・自閉症・視覚障害などがある演奏家31人を加えて、オーケストラを結成。半年間の練習を経て2010年3月、東京・NHKホールでのコンサートを実現させた。第1回は、初めての取り組みにとまどいながら、少しずつ心を紡いだメンバーたちの様子をVTRで振り返り、今回の試みを通して何をつかむことができたのか、小林さんにうかがう。
210	福祉ネットワーク	コバケンとその仲間たちスペシャル(2)			5074-6	世界で活躍する指揮者、“コバケン”こと小林研一郎さんが、プロアマの演奏家に知的障害・自閉症・視覚障害などがある演奏家31人を加えて、オーケストラを結成。半年間の練習を経て2010年3月、東京・NHKホールでのコンサートを実現させた。視覚に障害があるトロンボーン鈴木加奈子さんは、今回初めて、長年の夢だったフルオーケストラをバックにソリストをつとめた。鈴木さんにやり終えての感慨や心の変化をうかがう。
211	クローズアップ現代	アスペルガー症候群 活躍の場を求めて			5075-1	引きこもり、うつ病など20～40代の間で深刻化する問題の背後の多くに、実はアスペルガー症候群が潜んでいることがわかってきた。アスペルガー症候群は脳の機能障害で、知的障害はないが他人の気持ちを推し量ったり、暗黙のルールを理解できないため、職場では「変わった人」と見られ、孤立を深めて社会からドロップアウトしていく人が少なくない。一方でIT技術など特定の分野において秀でた能力を持っている人も多く、周囲が障害を理解し、対応を工夫すれば、目覚ましい活躍をすることも分かってきた。企業でも今、アスペルガー症候群の人を積極的に採用し、その力を活かそうという取り組みが始まっている。“アスペルガー症候群の人”たちが社会で活躍するためには何が必要なのか、当事者と雇用する側双方の取材を通して考える。
212	NHK岡山 報道室 便り	笑顔のピアニスト			5075-2	ダウン症の18歳の娘さんが幼い頃から習っているピアノを普通通っていた保育園で披露
213	福祉ネットワーク	シリーズ 支援が必要な子どもたちへの教育	インクルーシブ教育		5076-1	障害のある子どもたちの教育を2回シリーズで考える。第1回のテーマは、「特別支援教育」。福祉と教育の連携をどう進めたらいいのか？検証していく。政権交代により、大きな転換期を迎えた障害者施策。2010年1月には「障がい者制度改革推進会議」も発足し、本格的な議論がスタートした。この会議の大きなテーマの1つが「教育」だ。効果的で個別化された教育はどうすれば実現できるのか、2つの視点から検証する。第1回のテーマは「特別支援教育」。先進的な取り組みをしている長野県中野市の事例を見ながら、どのように福祉と教育が連携していけばいいのかを検証していく。

214	福祉ネットワーク	シリーズ 支援が必要な子どもたちへの教育	就学猶予		5076-2	障害のある子どもたちの教育を2回シリーズで考える。第2回のテーマは、「就学猶予」。低出生体重児の事例を検証しつつ、メリット・デメリットを考える。政権交代により、大きな転換期を迎えた障害者施策。2010年1月には「障がい者制度改革推進会議」も発足し、本格的な議論がスタートした。この会議の大きなテーマの1つが「教育」だ。効果的で個別化された教育はどうすれば実現できるのか、2つの視点から検証する。第2回のテーマは「就学猶予」。通常の体重で生まれた子よりも発育がゆっくりなこともある“低出生体重児”の事例を検証しつつ、メリットとデメリットを考える。
215	せとうちパレット930	公共交通機関に要望書提出	知的障害者らの支援団体		5076-3	岡山県手をつなぐ育成会岡山地区連絡協議会が平成22年6月8日にJR西日本、鉄道警察隊、他バス会社に要望
216	福祉ネットワーク	僕が弟を撮った理由			5077-1	一組の兄弟がいる。兄の押田興将(こうすけ)さん、40歳、映画プロデューサー。弟の清剛(きよたか)さん、33歳。清剛さんにはダウン症がある。今、兄は監督初作品として、弟を主役にオリジナル自主映画を撮り始めた。その映画のタイトルは「サンキュー窃盗団」。身寄りのないダウン症の兄と知的障害がある弟が、刑法第三十九条を悪用した振り込め詐欺のボスにだまされ、泥棒行脚を行うストーリー。社会の現実の中で生きる障害者の思いを描こうとしている。そして今年、兄は弟と同居しようと決意。自分たち兄弟、そして家族の居場所とは何か、映画でも実生活でも探し続けている。ダウン症の弟と向き合った映画の現場、家族の物語を重ね合わせながら、人が生きていく現実を見つめていく。
217	福祉ネットワーク	シリーズ サッカーにける若者たち	(2) 知的障害者のサッカー		5077-2	いよいよサッカーのワールドカップが開幕し、サッカーへの関心が高まっています。ワールドカップにも負けない盛り上がりを見せているのが、障害のある人たちがプレーするサッカーです。そのサッカーの知られざる魅力と競技にける若者たちの想いを2回シリーズで紹介します。2回目は知的障害者の人たちのサッカー。今年8月に、南アフリカで「もう一つのワールドカップ」と呼ばれる、知的障害者サッカー世界選手権が開かれます。日本代表は、前回大会では参加16か国中12位。今回はベスト8を目指しています。知的な障害がある選手たちは、コミュニケーションがうまくとれないという困難に直面しながら、サッカーを通じて大きな自信と達成感を得ています。番組では、日本代表選手の日堂や合宿に密着、南アフリカ大会での飛躍を目指し、もう一段強
218	福祉ネットワーク	路上でしか生きられなかった	知的障害とホームレス		5078-1	今年3月、「ホームレスの3割以上に知的障害」という調査結果が発表され、福祉関係者に衝撃を与えた。しかも、療育手帳の取得者は、わずか一人であることが判明。障害者としての支援がないために、職場でのいじめや、詐欺・恐喝などの犯罪被害を受け、ホームレスへと追い込まれてきた実態が明らかになった。従来の障害者福祉から抜け落ちてきた「知的障害者ホームレス」の現状を浮き彫りにし、必要な支援について考えていく。今年3月、「ホームレスの3割以上に知的障害」という調査結果が発表され、福祉関係者に衝撃を与えた。しかも、療育手帳の取得者は、わずか一人であることが判明。障害者としての支援がないために、職場でのいじめや、詐欺・恐喝などの犯罪被害を受け、ホームレスへと追い込まれてきた実態が明らかになった。従来の障害者福祉から抜け落ちてきた「知的障害者ホームレス」の現状を浮き彫りにし、必要な支援について考えていく。

219	BSドキュメンタリー	この子に心の薬は必要か			5079-1	アメリカでは、ADHD(注意欠陥・多動性障害)、アスペルガー症候群、OCD(強迫性障害)などと診断された子どもに対し、親が長期にわたって精神治療薬を飲ませるケースが増えている。子どもは、おとなしくなるが、はたして治療に役立っているのか？ それとも、子どものストレスを減らす努力や社会的なしつけなど、親の責務を果たさずに、安易な道を選んでいるにすぎないのか？ こうした子どもを抱える家庭からの報告。
220	きらっといきる	水へのこだわり	自閉症		5080-1	西島義浩さん、29歳。自閉症です。自閉症の特徴の一つに、“特定のものにこだわる”があります。子どもの頃から水に強いこだわりがあった西島さんは、養護学校を卒業後、ラーメン店で食器洗いをする仕事に出会いました。言葉で気持ちを伝えるのが苦手。でも、パソコンで日記を書くのは大好きです。この春、仲間と一緒に屋台での出張販売に出かけた西島さん。果たしてうまくいくのでしょうか。
221	BS世界のドキュメンタリー	モニカとデヴィット			5081-1	出会って互いに好意を持ち、いっしょに暮らしたいと思うようになったマイアミの30代の新婚カップル、モニカとデヴィッド。2人はダウン症のカップルだ。知的障害者同士の結婚は、生活上の支障が危ぐされ、アメリカでも、まれなケースだ。その結婚生活を通じ、2人とその家族は、ゆっくりだが確実に自立の意味を理解し始める。2010年トライベッカ映像祭・最優秀長編ドキュメンタリー賞を受賞。
222	福祉ネットワーク	ぼくの気持ちを伝えたい	携帯端末の可能性		5082-1	いま、自閉症児などが自分の意志を伝える「ツール」として、スマートフォンなどの携帯情報端末が注目されている。 (1)持ち運びしやすい、(2)視覚的な情報を触れることで操作する、(3)ソフトを増やせる、という携帯情報端末の特徴は、自閉症児などが使うツールとしてぴったりなのだ。 携帯情報端末の利用は、障害児教育の現場でも広がっている。香川大学教育学部付属特別支援学校では、半年前から授業に取り入れたことで、子どもたちが視覚的に授業の流れを理解できるようになり、自発的に行動できるようになったという。 また、これまで「福祉」と関わりがなかった技術者たちも開発に参加し、ユニークなソフトが次々と生まれている。スマートフォンなどの携帯情報端末と、障害児教育のコラボレーションをお伝えする。
223	福祉ネットワーク	子どもたちは今	東日本大震災 障害者の1か月		5082-2	東日本を襲った巨大地震から1か月。福祉ネットワークでは地震直後から、被災した障害者や高齢者たちの状況を伝えてきた。一部では支援や復旧の動きが見え始めたものの、多くの人たちはまだ、今後の生活をどうしていくのか、先の見えない不安の中にいる。 今回の番組では、2日間連続で、福祉ネットワークが取材を通じて把握した障害者、高齢者の被災の全体像などを伝えながら、被災状況もまだわからない中で、被災者たちが今直面する不安を伝える。 1日目は、これまでさまざまな支援を受けながら地域での暮らしを送ることができていた、障害のある子どもたちが、今どんな不安に直面しているのかをレポートする。

224	福祉ネットワーク	集団避難した人たち	東日本大震災 障害者の1か月		5082-3	東日本を襲った巨大地震から1か月。福祉ネットワークでは地震直後から、被災した障害者や高齢者たちの状況を伝えてきた。一部では支援や復旧の動きが見え始めたものの、多くの人たちはまだ、今後の生活をどうしていくのか、先の見えない不安の中にいる。今回の番組では、2日間連続で、福祉ネットワークが取材を通じて把握した障害者、高齢者の被災の全体像などを伝えながら、被災状況もまだわからない中で、被災者たちが今直面する不安を伝える。 先月24日、福島県いわき市で、さまざまな支援を受けて自立した生活を送っていた、障害者74人が、長野県へと集団避難をした。今後どのように生活を再建していくのか、ふるさとへの強い思いの中で揺れる障害者の姿を見つめる。
225	きらっといきる	被災地の障害者はいま	地域での暮らしを取り戻したい		5083-1	東日本大震災で被災した、障害者や高齢者の現状を伝える。第1回は、避難所での暮らしをレポート。
226	福祉ネットワーク	“まち”に戻りたい	陸前高田・障害者のグループホーム		5083-2	シリーズ東日本大震災。5月は、世の中が「復興」に向けて動き始めるなか、先行きの見えない不安に直面している障害者や高齢者の姿を伝える。1日目は、岩手県陸前高田市。グループホームでの暮らしを失った知的障害者の現状を取材。住む場所を失い、入所施設で避難生活を続ける人たちは、異なる環境に慣れず、大きなストレスを抱えている。以前と同じように自立した暮らしを取り戻すことができるのか。その現状と課題を見つめる。
227	福祉ネットワーク	病院が消えた	福島 障害者は今		5083-3	シリーズ東日本大震災。2日目は福島県北沿岸地域。原発の影響で、地域の精神科病院が休業状態となり、大きな不安を抱える精神障害者の姿を取材。近隣の公立病院では急きょ、県内外からの精神科医の応援を受け、診察を開始。しかし短期間で医師が変わらざるを得ない状況で、いつまで続けられるか、見通しは立っていない。精神障害の人たちの暮らしを守るには、どうしたらよいか。支援の基盤が揺らぐ地域の現状を伝える。
228	福祉ネットワーク	動き出した障害者支援	東北関東大震災		5084-1	東北関東大震災で被災した、障害者や高齢者の現状を伝える。第2回は孤立した状況の中で、さまざまな困難に直面する、障害者の生活を支える動きをレポート。
229	福祉ネットワーク	障害者災害関連情報 3 / 31			5084-2	3月11日の東日本大震災。福祉ネットワークでは、障害者、高齢者、子どもなど、いわゆる要援護者の方々に向けた情報をお届けしています。 31日の番組では現在までに分かっている障害者の被災状況を伝え、今求められる支援とは何かを改めて考え、新たな支援の動きを、団体の連絡先を含めてお伝えしました。
230	きらっといきる	被災地の障害者はいま			5084-3	

231	ハートをつなごう	若者のこころの病	反響編(1)		5084-4	6年目を迎えた「ハートをつなごう」。最初のシリーズのテーマは、「若者のこころの病」。2010年からキャンペーンとして放送し、毎回、当事者や家族から多くの反響が寄せられている。そうした声や疑問を紹介するシリーズを「反響編」としてお届けする。1回目のテーマは「働く」、そして「恋愛・結婚」。若者にとって関心の高いこの2つのテーマについて、これまで番組に出演してきた当事者や医師たちが、じっくりと語りあう。 岡山県倉敷市真備町「いちごの家」
232	福祉ネットワーク	ぼくと家族の未来	北海道 松本健夫 25歳		5085-1	北海道北斗市に暮らす、松永健太さん25歳を訪れる。養護学校を7年前に卒業し、その後、地域にある「はあと作業所」で働いてきた。この施設は、母親の登志子さんが「高校卒業後、とにかく健太が過ごせる場所がないと困る」と、奔走(ほんそう)して設立し、家族ぐるみで運営した場所だ。 当初、利用者は、健太さんを含めて3人だけだったが、今は17人に増え、地域からさまざまな仕事を受注できるようになった。その実績として、行政の補助金が出る施設に成長した。健太さんはメンバーの中では一番重度で作業効率は悪いが、その明るいキャラクターから、仲間から「社長」と呼ばれ、親しまれてきた。 しかしこれまで、健太さんの暮らしを必死で支えてきた登志子さんも、そろそろ無理がつかなくなる年齢になってきた。この春、家族はそれぞれ将来の暮らしと向きあった。
233	きらっといきる	私は社会人1年生！	知的障害 今田麻子さん		5085-2	今田麻子(いまだ まこ)さん、知的障害(ちてきしょうがい)があります。この春(はる)、学校(がっこう)を卒業(そつぎょう)して、社会人(しゃかいじん)になりました。 初(はじめて)の仕事(しごと)は緊張(きんちょう)の連続(れんぞく)。自分(じぶん)のペースでじっくりと取(と)り組(く)みますが、もちろん、失敗(しっぱい)することも…。 大人(おとな)ならではの楽(たの)しみも見(み)つけました。仕事が終(お)わった後(あと)の外食(がいしょく)です。 社会人1年生(ねんせい)、何(なに)にもかも新鮮(しんせん)な毎日(まいにち)です。

234	きらっといきる	やりたいことは 食器洗い__?	知的障害・松本 弘さん		5086-1	<p>松本弘(まつもと ひろし)さん、38歳(さい)。知的障害(ちてきしょうがい)があります。</p> <p>仕事(しごと)は、特別養護老人(とくべつようごろうじん)ホームの介護(かいご)ヘルパー。ていねいな気配(きくば)りで、お年寄(としより)をなごませます。</p> <p>悩(なや)みは、些細(ささい)なことで混乱(こんらん)して失敗(しっぱい)してしまこと。そのため、担当(たんとう)は食器洗(しょっきあら)いばかり。身体介護(しんたいかいご)をやりたいと思(おも)っていますが、任(まか)せてもらえません。</p> <p>自分自身(じぶんじしん)がもどかしい。悩みながら仕事と向(む)き合(あ)う、松本さんの日々(ひび)をみつめます。</p>
235	きらっといきる	被災地・福島 の障害者はいま			5086-2	<p>東日本大震災(ひがしにほんだいしんさい)の発生(はっせい)から、間(ま)もなく3か月(げつ)になります。</p> <p>今回(こんかい)は、東京電力福島第一原子力発電所(とうきょうでんりょく ふくしまだいいち げんしりょくはつでんしょ)の事故(じこ)で、避難(ひなん)を強(し)いられている福島県(ふくしまけん)の障害者(しょうがいしゃ)についてお伝(つた)えします。</p> <p>飯舘村(いいたてむら)で暮(く)らす精神障害(せいしんしょうがい)のある女性(じょせい)、南相馬市(みなみそうまし)の親子(おやこ)、いわき市で障害者が自(みずか)ら行(おこな)った避難訓練(ひなんくんれん)を取材(しゅざい)しました。</p>
236	きらっといきる	被災地の ちょっといい話			5086-3	
237	福祉ネットワー ク	障害の働くを 変える	大阪箕面市の社 会的雇用		5087-1	<p>従来の障害者制度を見直す「障がい者制度改革推進会議」。この会議で、これまでにない障害者の働き方が注目を集めている。</p> <p>大阪箕面市が進める「社会的雇用」。就労が難しいと言われてきた重度障害者などが働ける職場を作り、1人1人の能力に合わせた働き方を実践。最低賃金も保障され自立した暮らしを始める人も現れている。「社会的雇用」とはどのようなものなのか、箕面市の取り組みを通して、障害者就労の可能性と課題を探る。</p>

238	福祉ネットワーク	ロボット×リハビリ	可能性を切りひらけ		5087-2	<p>今、ロボット技術を活かしたリハビリが注目を集めている。各地の医療機関やリハビリ施設で使われているのは、筑波大学大学院の山海嘉之教授が開発した福祉用ロボット「HAL」。人の意志に従って動き、歩行や動作のアシストするという画期的なロボットだ。</p> <p>茨城県は、脳梗塞や交通事故で体にまひがある人などさまざまな疾患の患者を対象に実証試験を実施。歩き方に改善が見られるなどの効果があったという。さらに鹿児島県の病院では、入院直後の急性期からHALを使ったリハビリを行ったところ、予想より回復が早いという結果が出てきた。</p> <p>ロボットスーツを使った新たなリハビリは、体の不自由な人たちにどんな効果をもたらすのか。ロボット技術を活かしたリハビリの現場を取材し、その可能性と課題を探る。</p>
239	きらっといきる	プーモンが街を行く	知的障害・李復明さん		5087-3	<p>李復明(リ・ブミョン)さん、通称(つうしょう)プーモン。知的障害(ちてきしょうがい)があります。毎日(まいにち)、大阪(おおさか)の街(まち)を自転車(じてんしゃ)で走(はし)り回(まわ)っています。</p> <p>誰(だれ)にでも話(はな)しかけ、知(あい)り合(あい)を増(ふ)やすプーモン。街の有名人(ゆうめいじん)です。</p> <p>プーモンの、今(いま)一番(いちばん)の興味(きょうみ)が、お金(かね)を稼(かせ)ぐこと。仕事(しごと)では人一倍(ひといちばい)やる気(き)もありますが、失敗(しっぱい)も・・・。</p> <p>真剣(しんけん)だけど、ちょっとユニーク。プーモンの日常(にちじょう)に密着(みっちゃく)です。</p>
240	福祉ネットワーク	避難と言われ ても	福島の障害者は いま1		5088-1	<p>地震・津波に加え原発事故の被害を受け、いまま見通しのつかない不安な暮らしを強いられる福島の障害者の現状を見つめ、必要なことは何かを探るシリーズの1回目。南相馬市で5月から始まった市と民間団体の連携による障害者の調査を通じて、災害時の支援のあり方を考える。南相馬市では原発事故の直後、市全域で避難が進められ、7万人いた人口が一時は1万人にまで減った。そんな中取り残されたのは自力で避難できない障害者が多かった。市は避難に支援を必要とするいわゆる「災害時要援護者」への支援計画を作っていたが、基礎となる情報が不十分だったため機能しなかった。今後必要となるかもしれない緊急避難の時に、再び障害者が取り残されることのないように、市と障害者団体は連携して調査を始めている。調査の中で明らかになった「避難できない」障害者の現実から、これからの「災害時要援護者」支援のあり方を考える。</p>



241	福祉ネットワーク	避難したけれど	福島の障害者はいま2		5088-2	東日本大震災の発生から4か月。福島第一原子力発電所の事故はいまだ収束せず、被災者は長期にわたる不自由な生活を強いられている。中でも障害のある人たちは、避難できずに緊急避難準備区域の中で不安な生活を送らざるを得なかったり、避難先で孤立し、必要なサービスを受けられないために体調を悪化させたりするなど深刻な状況に追い込まれていることが明らかになってきた。その多くが避難先を転々とし、山奥のペンションにたどり着いたり、アパートを借り上げたりして情報を受け取れず孤立していると見られている。こうした事態を受け、障害者相談支援専門員の斉藤研一さんは広大な地域に点在する避難所をめぐる障害者を支援に結びつけてきた。しかしいまだに全容把握が困難になっている。また障害者の姿がみえないことで行政もニーズが把握できず、生活再建の支援策も遅れている。二回目は障害者の支援に駆け回る斉藤さんに同行取材。疲弊し、状態を悪化させる障害者達の現状を見つめ、どう生活再建に結びつけるのかを考える。
242	ハートをつなごう	きょうだい 障害のある人の兄弟姉妹	抱えてきた生きづらさ		5089-1	「子ども時代に親に甘えられなかった」「大人になっても、自分のために人生を生きられない」・・・障害のある人や、難病などで長期闘病している人の兄弟姉妹は、「きょうだい」あるいは「きょうだい児」と呼ばれ、成長の過程で悩みや葛藤を抱く人が多いといわれています。しかし、家族支援の必要性が指摘されるようになって、「きょうだい」は、なかなか支援の対象として捉えられてきませんでした。
243	ハートをつなごう	きょうだい 障害のある人の兄弟姉妹	自分を生きるために		5089-2	「自分が悩んでいることで、親を悲しませたくない」、「周囲の人に話せば、自分が悪い人間だと思われるのではないか」・・・一人で苦しんでいる若者が、数多くいるのではないかとされています。「きょうだい」は、どんなことに苦しんでいるのか。そして、成長の過程で抱えるさまざまな課題を、どうやって乗り越えていけばいいのか。番組では、当事者のみなさんとともに考えていきます。
244	きらっといきる	東日本大震災から半年	県外避難障害者		5089-3	岩手県陸前高田市では、かつて28人の知的障害者が入所施設を出て、地域で自立した生活を送っていた。しかし、震災で建物が全壊。住む場所と地域とのつながりの全てを失った。復興住宅で、再び共同生活を始めた障害者の人たち。入居から2か月、慣れない避難生活のなかで心身の調子を崩す人や、周囲との交流が途絶え、孤立感を深める人も少なくない。地域の暮らしを取り戻そうと模索を続ける障害者たちの姿を見つめる。
245	きらっといきる	紀伊半島集中豪雨	障害者はどう命をまもったか		5089-4	9月初め、台風12号による記録的な豪雨で、紀伊半島に大きな被害が出ました。死者・行方不明者は、100人近いとされています。今回「きらっといきる」では、台風の最中、障害のある人たちがどのように自分の命を守ったのか、また、今どのような状況にあるのか、特集を組んでお伝えします。取材したのは、奈良県の最南端にある十津川村。人口4千人、障害のある人は、およそ300人います。

246	ハートをつなごう	きょうだい	障害のある人の兄弟姉妹		5090-1	9月末に放送した「きょうだい 障害のある人の兄弟姉妹」には放送中から、さまざまな反響が寄せられました。「自分だけじゃなかった。気持ちが楽になった」という"きょうだい"本人、「子どもたちの思いに気がつけなかった」という障害のある子を持つ親、そして障害のある本人からも…。障害のある人や、難病などで長期闘病している人の兄弟姉妹は「きょうだい」と呼ばれ、特有の悩みや葛藤を抱きやすいと言われています。「きょうだい」というテーマに強い関心を抱いたMCの石田衣良さんは、自閉症の妹を撮りドキュメンタリー映画を作った「きょうだい」がいると聞き、会ってみたいと考えました。障害のある妹と初めて正面から向きあったという監督が作品『ちづる』に込めた思いとは？さらに前回出演した「きょうだい」たちとともに、番組に寄せられた反響(Voice)を紹介。夜のカフェで、とことん語り合います。
247	追跡！真相ファイル	都会の孤立死SOSが届かない			5091-1	1月下旬、札幌市のマンションで、40代の姉と知的障害のある妹が死亡しているのが見つかった。家賃を滞納しガスも止められた部屋の中で、姉は病死。妹は携帯電話で助けを求めようとした形跡はあるものの、結局誰にも届かず、凍死した。地域から孤立した一家が亡くなるケースは、さいたまや東京・立川など、その後も全国各地で相次いで発覚している。NHKの取材班は、姉の手書きの履歴書や、区役所に生活保護を相談した際の面接記録などを入手。そこからは、生活の窮状を訴えたものの「申請の意志がなかった」として生活保護を受けられず、求職活動が続ける中で次第に追いつめられていった姉の姿が浮き彫りになってくる。
248	福祉の進化が問われている	障害者 震災1ヶ月の記録			5091-2	
249	ハートネットTV	語るテーマ「ある母と子の“孤立死”」1			5092-1	今年2月、東京・立川市で、急病により母親が亡くなり、そののちに男児(4歳)が衰弱して亡くなり、死後2ヶ月近く経った状態で発見されました。この出来事にふれて、どんな思いを抱いたか。「子どもの孤独な死」を防ぐためにはどうしたらいいか。みなさんと語り合い、一緒に考えていきたいと思います。
250	ハートネットTV	語るテーマ「ある母と子の“孤立死”」2			5092-2	
251	ハートネットTV	語るテーマ「ある母と子の“孤立死”」3			5092-3	
252	福祉ネットワーク	親のおカネは誰のもの？	成年後見制度		5093-1	
253	首都圏ニュース	成年後見制度を使いやすく			5094-1	
254	BSニュース	障害者にも”逸失利益”認め和解			5095-1	

255	BSニュース	東日本大震災 自閉症の人たち	震災で今でも不安定	避難先での様子を報告	5096-1	
256	ハートネットTV	未来へのアクション Files14 脱！月給1万3千円			5097-1	全国にある障害者の就労支援事業所は、5千か所を超えます。そこで働く障害者のおよそ9割の人が受け取っている賃金は、月におよそ1万3千円。賃金水準の低さは、長年、社会問題として指摘されていて、国も工賃の倍増計画を打ち出しているものの、なかなか改善しないのが現状です。こうした現状を変えようと取り組みを続けるNPO法人「ワークスみらい高知」。代表の竹村利道さんは、かつて社会福祉協議会で働く中で、単純な作業を繰り返し低い工賃しか受け取れない障害者の人たちが、生きる気力すらも失っていくのを目の当たりにしてきました。「障害者の働く環境を変えたい」と40歳で退職した竹村さんは、手作りパンを売る店を立ち上げ、障害のある人たちを雇用。しかし経営は2年で破綻。最大の原因は、ビジネスに対する意識の甘さだったといいます。「このパンは障害のある人が心を込めて作りました」という、いわば障害を売りにしたビジネスでは、一部の人たちにしか買ってもらえない…。そう気づいた竹村さんは、再起をかけて、福祉事業所を運営するNPO法人を設立。新たに掲げた方針は「障害を売りや言い訳にしない」こと、そして「徹底した品質とサービスの追求」でした。取り組みの結果、地元の人たちの支持を集め、100人以上の雇用を創出。月10万円近い賃金を支払うまでになりました。
257	ハートネットTV	福マガプラス	「大阪地裁判決の波紋 —発達障害者をどう支えるか—」		5098-1	最新の福祉のトピックを分かりやすく解説する「福マガ」。今回は特別号として、発達障害のある男性が殺人罪に問われた裁判員裁判の判決について検証します。大阪地方裁判所が言い渡した判決では、「社会にこの障害に対応できる受け皿が用意されていない現状では、再犯のおそれが強く心配される」とされ、検察側の求刑を上回る懲役20年が言い渡されました。支援団体などからは「発達障害の人を社会から排除しようとする内容で、偏見や差別を助長する」という批判の声があがっています。
258	ハートネットTV	カキコミ！深層リサーチ	障害のある人の“働く”(1)		5099-1	毎月、注目のテーマについて、カキコミ板への投稿を呼びかけ、集まったカキコミから、「当事者のリアル」を掘り下げていく、「カキコミ！深層リサーチ」。12月のテーマは「障害のある人の“働く”」。いま、仕事を求める障害者が増えています。去年1年間で、ハローワークを通して求職申し込みをした障害者は14万8千人で、過去最多に。そんな「働きたい障害者」の増加を受けて、国は来年度から、企業などに義務付けている「障害者雇用率」を上げることを決定しました。しかし、採用する企業側と、就職したい障害者の側で、ミスマッチが起きているというので
259	ハートネットTV	カキコミ！深層リサーチ	障害のある人の“働く”(2)		5099-2	
260	ハートネットTV	シリーズ 罪を犯した障害者と向きあう(1)	もう刑務所には戻らない		5100-1	罪を犯して刑務所に入る人の4分の1に知的障害がある疑いがある。近年、そんな衝撃的なデータが明らかになりました。その多くは障害があることを周囲から理解されず、福祉サービスにもつながらずに貧困と孤立を余儀なくされている人たちです。中には万引きや無銭飲食を繰り返して10回以上、刑務所に入ったという

261	ハートネットTV	シリーズ 罪を犯した障害者と向きあう(2)	福祉が変わる 司法が変わる		5100-2	人も少なくありません。どうすればこの負の連鎖を断ち切れるのでしょうか。刑務所を出た障害者を福祉につなげるため、3年前に立ち上げられた「長崎県地域生活定着支援センター」の活動を通して、罪を繰り返す障害者の実情と、必要な支援は何かを探っていきます。
262	ハートネットTV	後見人が足りない！ —鳥取発 成年後見制度の今—			5101-1	認知症などで判断能力が衰えたとき、本人にかわってその意思を伝え、介護サービスの契約や、入院などの手続き、財産管理などを担う成年後見人。12年前に、介護保険制度とともに制度化され、これまで17万件におよぶ利用があります。認知症高齢者や一人暮らしの高齢者の増加に伴って、急速にその必要性が高まっています。 しかし、いま、そのなり手が不足し、高齢者や障害者が孤立するという事態が起きています。本来、後見人となるべき親族が見当たらず、入院ができない、必要な介護を受けたくても受けられない、といった事態が相次いでいるのです。 こうしたなか、市町村などから相談を受け、成年後見人を引き受けているのが、鳥取県で活動する任意団体「成年後見ネットワーク鳥取」です。代表の寺垣琢生さん(56歳・弁護士)は、現在、20件以上の成年後見人を担当。しかし、最近、急増するニーズに対し、このまま取り組み続けることに、もはや限界を感じ始めています。 認知症高齢者、知的・精神障害者あわせて、500万人を超えるともいわれる「潜在的”後見ニーズ”」。今後、爆発的に増加が見込まれる事態に、どう対応していったらよいか。
263	ハートネットTV	カキコミ！深層リサーチ File9 大学生の発達障害			5102-1	従来の取材では伝えて来なかった「知られざる社会の側面」を、ネット上で当事者と細い糸でつながることで明らかにするシリーズ『カキコミ！深層リサーチ』。2月のテーマは「大学生の発達障害」。 今、全国の大学・短大・高等専門学校の中で障害のある学生は1万236人。そのうち発達障害は1453人で、「発達障害」というカテゴリを設けて調査が始まった2006年・127人と比べると10倍以上に増えています。医師の診断はないものの支援を必要とする学生はさらに多くいると見込まれていて、彼らが学びやすい環境をどう作っていくか、大きな課題となっています。 また、何の支援も受けられず、学習や学校生活、また就職活動がうまくいかない状態が続くと、うつや不安障害などを引き起こし、留年や休学、また不登校やひきこもりの状態が長期化するなどという深刻なケースもあるといいます。 当事者たちにはどんな“生きづらさ”があるのか、また彼らが大学生活で自分の力を発揮し、将来の目標に向かって進んでいくためにはどうしたらよいか、学生たちや学校関係者、また社会に出た大人たちなど幅広い人たちの声から考えて
264	ハートネットTV	「発達障害 苦手なことは克服すべき？vs. ありのまま受け入れる？」前編			5103-1	めぐる大の大人に深い関わりがあるテーマを、さまざまなマイクアワーが語り合うシリーズ、「Our Voices(アワーボイス)」。第4回は、発達障害の人たちによる徹底トークでお送りします。 今回のテーマは、「“苦手なこと”とどう向き合うか」。発達障害の人たちには、「片づけや整理整頓ができない」「他人の気持ちを読み取るのが難しい」「読む、書く、計算するといった特定の能力だけに困難がある」など、人によってさまざまな特性があり、それらがコミュニケーションや日常生活に支障をきたすことも少なくありません。脳の機能障害が原因とされ、その現れ方はさまざまですが、“苦手なこと”

265	ハートネットTV	「発達障害 苦手なことは克服すべき？vs. ありのまま受け入れる？」後編			5103-2	<p>とどう向き合っていけばいいのか悩んできたという体験は、多くの当事者が共通して抱えています。そんな発達障害の人たちがスタジオに集合し、「苦手なことは克服しようとする派」と「ありのまま受け入れる派」の二手に分かれて、熱いトークを展開。そう考える理由や体験談を、互いに熱く語り合いました。</p> <p>自分の“苦手なこと”とどう向き合っていけばいいのか。悩んでいるすべての人にさまざまなヒントを与えてくれる熱い議論を、2日間にわたってお届けします。</p>
266	ハートネットTV	カキコミ！深層リサーチ File9 大学生の発達障害			5104-1	<p>従来の取材では伝えて来なかった「知られざる社会の側面」を、ネット上で当事者と細い糸でつながることで明らかにするシリーズ『カキコミ！深層リサーチ』。2月のテーマは「大学生の発達障害」。</p> <p>今、全国の大学・短大・高等専門学校の中で障害のある学生は1万236人。そのうち発達障害は1453人で、「発達障害」というカテゴリを設けて調査が始まった2006年・127人と比べると10倍以上に増えています。医師の診断はないものの支援を必要とする学生はさらに多くいると見込まれていて、彼らが学びやすい環境をどう作っていくか、大きな課題となっています。</p> <p>また、何の支援も受けられず、学習や学校生活、また就職活動がうまくいかない状態が続くと、うつや不安障害などを引き起こし、留年や休学、また不登校やひきこもりの状態が長期化するなどという深刻なケースもあるといいます。</p> <p>当事者たちにはどんな“生きづらさ”があるのか、また彼らが大学生活で自分の力を発揮し、将来の目標に向かって進んでいくためにはどうしたらよいか、学生たちや学校関係者、また社会に出た大人たちなど幅広い人たちの声から考えていきます。</p>
267	ETV特集	人とうまくつきあえない ～いじめ・虐待と自閉症スペクトラム～			5105-1	<p>いじめや不登校、親からの虐待など、子どもたちの「心」に深刻な傷を負わせてしまう人間関係の問題。こうした解決が難しいと思われてきた問題の背後に、発達障害の一つ「ASD(自閉症スペクトラム障害)」が大きく影響していることが最新の研究から明らかとなってきました。ASD(自閉症スペクトラム障害)は人の気持ちを察したり、自分の気持ちを上手く言葉で表現するのが苦手な障害です。自閉症や広汎性発達障害・アスペルガー症候群など「社会性やコミュニケーション」の障害の総称です。ASDが見過ごされてしまうと、意図せずに人間関係でトラブルを重ねてしまい、いじめや親から子への虐待へと発展してしまうことがあります。そうした状況が長く続くことで、うつ病や自傷行為など深刻な「心の病」を発症してしまうことも分かってきました。</p> <p>番組では、ASDが原因となり、心に深い傷を負ってしまった子どもたちが集まる診療所を舞台に、なぜいじめや虐待の対象となってしまうのか、心の傷はどうすれば癒えるのかを探ります。また、ASDを一歳半健診で早期に発見し支援する画期的な取り組みや、子どもたちの脳の研究など、ASDと向き合う最前線に密着します。</p>

268	ハートネットTV	シリーズ 発達障害の子どもとともに	第1回「親を支える」		5106-1	<p>「我が子に発達障害がある」と診断されてから、これまで「発達障害の子は特別な子で、育て方が違う」と思っていました。NHKのウェブサイトには、発達障害の子どもをもつ親から、悩みの声が数多く寄せられています。</p> <p>「発達障害者支援法」の施行から8年。早期発見・早期支援が謳(うた)われ、「発達障害」という言葉だけは広がりましたが、理解や支援はまだ不足しており、そのしわ寄せが親に及んでいます。どうすれば親の苦しさを少しでも軽くできるのでしょうか。</p> <p>鳥取県では4年前から「ペアレント・メンター」という事業に取り組んでいます。実際に発達障害のある子を育てた親が、いま悩んでいる親の気持ちに寄り添い、具体的なアドバイスもするという仕組みです。メンターの明るい姿に救われたという親も少なくありません。</p> <p>発達障害のある子どもをもつ親の置かれた現状と、必要な支援について考えます。</p>
269	ハートネットTV	シリーズ 発達障害の子どもとともに	第2回「“育ち”を支える」		5106-2	<p>化に弱い」などの特性があり、うまく集団生活できないことが多いといわれます。しかし「本人の特性は何か」を見極め、関わり方を工夫すれば、子どもの育ちを促し、生活を楽にすることは可能です。</p> <p>山梨県の療育現場では、特性に合わせて「視覚的な伝え方」や「声かけの工夫」、「人とのかわりを学ぶ」独自のプログラムを行っています。こうした支援に出会ったことで、以前は保育園でトラブルを抱えていた4歳の男の子は、少しずつ友達に優しくすることができるようになったといいます。こうした工夫を保育園・幼稚園にも広めていこうとする大分県の取り組みをご紹介します。子どもの育ちを地域で支えていくためのヒントを考えます。</p>
270	ハートネットTV	シリーズ 発達障害の子どもとともに	第3回「大人になった私たち」		5107-1	<p>どうなるのか」ということです。社会で自立できるようにするために、今何をすべきなのでしょう。支援の歴史も浅い中で、相談できる先は少ないのです。</p> <p>NHKでは15年以上にわたって、発達障害について取材してきました。その中には取材当時は子どもでしたが、いまは成人して社会に出て働いている人もいます。いまよりはるかに理解も支援も乏しかった時代をどのようにサバイバルし、成長していったのでしょうか。辛かったことや役に立ったことを振り返りながら、子ども時代に必要な支援を考えます。</p>

271	ハートネットTV	シリーズ 発達障害の子どもとともに	第4回「Q&A」		5107-2	<p>発達障害のある子どもと、その親を支えるヒントを探るシリーズの4回目。今回は視聴者からいただいた質問に生放送でお答えします。</p> <p>「ほかの子との違いが気になるが、診断を受けるべきかどうか」「学校をどうするか」「自立に向けてできることは」…。</p> <p>スタジオには発達障害の専門家と当事者を招き、それぞれの立場から答えていただくとともに、発達障害の子どもを育てるにあたって大切なことは何かを語り合います。</p>
272	ハートネットTV	シリーズ 発達障害の子どもとともに	第5回「きみが教えてくれた大切なこと—シンガー・ソングライター うすいまさと—」		5108-1	<p>今回は発達障害の子ども3人のパパで、シンガー・ソングライターのうすいまさとさんをゲストに招いてのトークセッションをお届けします。</p> <p>うすいさんの長男、直人くんが自閉症と診断されたのは4歳のとき。「この子ときちゃんと向き合おう」と覚悟を決めたものの、その後の苦労は並大抵のものではありませんでした。特定のものに強い“こだわり”を見せ、思い通りにならないと突然パニックを起こして泣き始める。不可解な行動をとる直人くんに向き合えばいいのか、手探りの日々が続きました。そんなうすいさんが、ある出来事をきっかけに、直人くんと少しずつ心を通わせることができるようになっていきます。果たしてその出来事とは？そして、子どもたちから教えてもらった「かけがえのない大切なこと」とは？</p> <p>スタジオでは、子どもとの関わり方や、その後の成長について、たっぷりとお話を伺います。トークとあわせて、オリジナル曲を生演奏。発達障害の子どもの子育てに奮闘中のお父さんやお母さん、教育・福祉・医療などに携わっている方々にもご参加いただき、体験や思いを分かち合います。</p>
273	ハートネットTV	シリーズ 発達障害の子どもとともに	第6回「700通の声から未来へ」		5108-2	<p>4月の特集「発達障害の子どもとともに」の最終回は、番組にお寄せいただいた700通を超えるみなさんの声をもとに「子どもの未来を作るためのヒント」を探ります。</p> <p>番組のカキコミ板「うちの子は世界一！」に寄せられた声からは、特性を「強み」に変えている子育ての体験談を紹介。</p> <p>さらに、発達障害のある子どもを育てる親たちから寄せられた「学校での悩み」に答えて「障害のある子もない子も、ともに学び、過ごしやすい学級作り」に取り組む東京・日野市の小学校を取材。これからの学校のあり方を考えます。</p>

274	ハートネットTV	徹底検証！障害者総合支援法			5109-1	<p>今月から「障害者目立支援法」を改正した新たな法律「障害者の日常生活および社会生活を総合的に支援するための法律」(通称「障害者総合支援法」)が施行されます。</p> <p>この法律では、「障害のある人の基本的人権の尊重」を明記。また、これまで制度の谷間となっていた国が定めている難病患者等が支援の対象に加わるなど大きな変化が期待されています。</p> <p>しかし、支援を必要とする当事者たちからはさまざまな疑問の声があがっています。例えば「難病患者等が支援の対象に加わるのは望ましいが、新たに谷間の“障害者”を生み出しているのではないか」「重度訪問介護が知的や精神に障害のある人にも拡大することが検討されているが、支援の対象となる当事者の範囲はどこまでなのか」。</p> <p>今年度から3年をかけ、障害者施策を段階的に講じていく「障害者総合支援法」。番組では、今回の法律改定で「何が変わったのか」そして「何が検討中なのか」を検証。当事者のニーズを踏まえた必要な障害者施策のあり方を探ります</p>
275	ハートネットTV	障害者からのSOS	—「障害者虐待防止法」施行から8か月—		5110-1	<p>去年10月に「障害者虐待防止法」が施行され、障害者虐待の通報が義務づけられたことで、これまで埋もれがちだった虐待の実態が次々と明らかになっています。千葉と福岡の福祉施設では、理事長による利用者への暴行事件が通告され、刑事事件に発展。障害者虐待の根深さが浮き彫りとなりました。</p> <p>虐待に関する通報が急増する中、各自治体の対応窓口となる「障害者虐待防止センター」では新たな課題が浮かび上がっています。センターでは、虐待を受けた人を一時保護する「居室の確保」を担うが、特に精神障害のある人の受け皿となる施設が不足し、虐待を受けた人が施設を転々とせざるを得ない事態が起きているのです。さらには「みずから被害を訴えることが難しい知的障害者」への虐待をどう見つけ出し、支援につなげるのか、難しい対応を迫られています。</p>
276	ハートネットTV	シリーズ 発達障害の子どもとともに	反響編 思春期の二次障害と向きあう		5110-2	<p>4月の月間特集として放送した「シリーズ発達障害の子どもとともに」には、視聴者のみなさんから800件を超える大きな反響をいただきました。その中には思春期の子どもを抱える親からの深刻な声もたくさん含まれていました。</p> <p>「家から一歩も出られないひきこもりになって5年たち、現在15歳です。「もう自分の将来はない、あとは、死ぬだけなので、なにをやっても意味はない。」と言います。」(神奈川・40代 母親)</p> <p>「暴力行為がひどいので、まともな生活が送れません。母子家庭なので、暴れると止められる人間はいません。娘と私はあざだらけです。」(埼玉・30代 母親)</p> <p>そこで今回は、シリーズの「番外編」として、発達障害のある子が思春期に陥りやすい「ひきこもり」「家庭内暴力」「非行」などの二次障害への対応について、専門家をお招きしてお話をうかがいます。カキコミを寄せていただいた親御さんや先生にも参加していただき、思春期の二次障害への向き合い方を考えます。</p>



277	ハートネットTV	思いっきり踊ろう！— ダウン症のヒップホップダンサー —			5111-1	<p>茨城県つくば市にあるダンススクールに去年初めて、ダウン症のインストラクターが誕生しました。ヒップホップダンスを始めて11年の佐藤皓平さん(19歳)。筋肉がつきにくく、運動が苦手といったダウン症のイメージとは裏腹に、柔軟性を生かしたキレのある動きが自慢です。</p> <p>皓平さんがダンスを始めた当初、クラスにダウン症は一人だけ。皆に負けたくないという思いから一生懸命取り組み、一人でステージをこなせるまでに上達しました。</p> <p>障害のある子どもたちのダンスクラスで、去年10月からインストラクターの見習いを始めた皓平さん。しかし、踊るのと教えるのではなかなか勝手が違います。生徒たちに話しかけられず、教えるようにも教えられなかったり、トラブルに対処できず戸惑ったり。それでも小さいころから皓平さんの成長を見守ってきたインストラクターの田巻以津香さん(32歳)の支えの中で、奮闘を続けます。</p> <p>皓平さんは今回、インストラクターとして初の舞台に挑みました。1000人を超える観客の前で、生徒たちと共にどんなステージを演じたのか。新米先生・皓平さんの3か月の成長を記録しました。</p>
278	バリバラ	テーマ「ダウン症」 ”ダウン症”って何？			5111-2	<p>自分のことを「知的障害者」ではなく、「ダウン症のイケメン」と呼んでほしいと訴えるあべけん太さん。今回、ダウン症について、そして自分について知ってもらうため、自らの特技や自慢しているものをクイズにして出題する！題して「クイズ！あべけん太！」</p>
279	ハートネットTV	タブレットが学習障害児の未来を変える			5112-1	<p>教科書を読む。黒板に書かれた文字をノートに写す…。こうしたことが難しく、授業になかなかついていけない子どもたちがいます。「学習障害(LD)」という障害です。知能の遅れはなく、学校の教師も見逃しがちな学習障害のある子どもたちを、タブレット端末など最新の情報通信機器で支援しようという取り組みが、いま注目されています。</p> <p>読み書きが苦手な、学習障害と見られている小学5年生の太一くん。障害児を支援する東京大学のプロジェクトを通じてタブレット端末に出会い、生活が大きく変わりました。教科書の内容は、音声読み上げ機能を使って耳から理解。苦手だった板書はカメラ機能で記録することで補い、授業の復習をすることが出来るようになりました。</p> <p>タブレット端末を使って、授業のあり方を変えていこうという取り組みも始まっています。大分県佐伯市の小学校では、クラスの児童全員にタブレット端末を配布。タブレットのどのような機能を使っているかを解析し、読み書きが苦手な子どもたちの学習支援に役立てようとしています。</p> <p>タブレットなどの情報通信機器で大きく変わろうとしている、学習障害児の教育現場を追います。</p>

280	バリバラ	テーマ「自閉症」 ”自閉症”って何？			5112-2	自閉症やその周辺にいる人たちにに関するクイズを出題！日頃から見知らぬ人に声をかけては、謎の「リポート活動」をしているというテレビリポーター志望の青年。その意外なリポートの対象とは？「自閉」という言葉のイメージから誤解されやすい当事者のユニークな世界観を紹介！
281	バリバラ	テーマ「作業所」 工賃アップのヒントを探れ！			5113-1	作業所で働く障害者の平均工賃は約13500円。どうすれば工賃アップできるのか？内職仕事を中心に時給100円だった作業所が、新事業で工賃5倍を実現した例や、企業とのコラボで生まれたヒット商品などを紹介しながら、工賃アップのためのヒントを探る。
282	バリバラ	テーマ「作業所」 工賃アップ大作戦！			5113-2	作業所の工賃はどうすればアップできるのか？1か月働いても工賃6000円という長野県の作業所を、農業コンサルティングのプロがテコ入れ！プロが打ち出す再生のための三つの秘策とは？劇的大改造の一部始終をドキュメントで追う。
283	ハートネットTV	幸せバリアフリー —障害者差別解消法 施行へ— 第1回 まちづくり			5114-1	今年6月に成立した「障害者差別解消法」。この法律によって、国や地方自治体、事業者は、障害のある人に対する差別をなくしていくための具体的な対応が求められています。 番組では先進的に差別解消に取り組んでいる自治体と企業を取材。スタジオに担当者と有識者を招き、2日間にわたり、大切なポイントと課題を議論します。 1日目のテーマは「まちづくり」。条例を作って取り組んでいる北海道の「路線バスに、電動車イスの利用者が乗車する」というケースから、差別解消のためのヒントを探ります。2日目のテーマは「雇用」「働き方」、翌日同時時間帯の放送です。
284	ハートネットTV	幸せバリアフリー —障害者差別解消法 施行へ— 第2回 企業の取り組み			5114-2	今年6月に成立した「障害者差別解消法」。この法律によって、国や地方自治体、事業者は、障害のある人に対する差別をなくしていくための具体的な対応が求められています。 番組では先進的に差別解消に取り組んでいる自治体と企業を取材。スタジオに担当者と有識者を招き、2日間にわたり、大切なポイントと課題を議論します。 2日目のテーマは「雇用」。従業員のおよそ2割、障害のある人を積極的に雇って業績を伸ばしている新潟県の町工場の取り組みから、障害のある人の力を引き出す経営のヒントを探ります。
285	バリバラ	テーマ「子育て」 イクメンになれる？～発達障害児の子育て～			5115-1	発達障害の子どもの子育てにおいては、夫が子どもの障害を認めないなど、夫婦の間に溝がでやすい。どうすれば父親は「イクメン」になれるのか？ゲストも「イクメントレーニング」に挑戦。仕事が忙しく時間がない父親にも可能な子育てを考える。
286	バリバラ	テーマ「福祉機器」 福祉機器 大集合！2013			5115-2	障害のある人たちの暮らしをサポートする福祉機器。歩行をアシストするロボットスーツや、おでこで物を「見る」ハイテク機器から、既存のスマホやタブレット端末にアプリを入れて手軽に活用できる「あるテク」まで、生活に役立つ福祉機器を紹介する。

287	バリバラ	テーマ「差別」	「これって差別or配慮？」		5116-1	視覚障害者だと飲食店で出入り口付近の席ばかり案内される…これって差別？配慮？障害者が日頃モヤモヤしていることが差別になるかデータ放送・番組HPを通じてアンケート。番組に投稿された意見や感想も交え、生放送で徹底トーク！
288	ハートネットTV	即興が世界をつなぐ —大友良英と「音遊びの会」の仲間たち—	第一回 まだ見ぬ音を求めて		5117-1	知的障害児とその家族、即興音楽のミュージシャン、舞踊家、音楽療法家が集まり、即興による“新しい音楽”を生み出し続けてきた「音遊びの会」が、9月、初の海外公演・UKツアーに挑戦。即興音楽の本場の観客の心を動かす素晴らしいライブを繰り広げました。 「音遊びの会」は、8年前、神戸大学で音楽療法を研究する大学院生が、障害児とミュージシャンが“同じ地平”に立って、即興による“まだ見ぬ”新しい音楽を創り出すことを目指して立ち上げました。 メンバーの一人が世界的な即興音楽の演奏家、大友良英さん。最初は障害者としてどう向き合えばよいのか分からず 悩んだ大友さんですが、一緒に音楽を作り上げてゆく過程で、互いに認め合えるようになったといいます。 ロンドンではイギリスを代表する即興音楽の専門のライブハウスで公演、耳の肥えたロンドンの人々から熱狂的な拍手を受けました。障害者のアート活動の先進地・グラスゴーでは地元の団体と一緒にライブに挑戦、即興を通じて障害や国を超えて会場全体が一つになる、感動的な演奏が実現しました。 番組では、「音遊びの会」のUKツアーに密着取材。二日連続で「音遊びの会」が
289	ハートネットTV	即興が世界をつなぐ —大友良英と「音遊びの会」の仲間たち—	第二回 同じ地平に立つということ		5117-2	わづかな血液を採取することで、胎児に染色体異常があるかどうか、その確率が分かる新たな出生前検査が、先月から日本でもスタートしました。 日本産科婦人科学会が主体となり、半年におよぶ議論の末、臨床研究として一部の医療機関で行われています。 そんな中、臨床研究開始に複雑な思いを抱いているのが、検査対象となっているダウン症の人とその家族。自分の人生を否定されたと感じたり、検査もさることながら、今生きているダウン症の子どもたちの支援を充実させる方が先ではないかとさまざまな思いを抱いています。 一方、新たな出生前検査が開発され、いち早く導入したアメリカでも、産む産まないの選択を迫られている妊婦の決断をどのように支えるべきか、模索が続いています。ダウン症の子どもを育てる母親と医療者が連携。医学的な情報にとどまらず、実際にダウン症の子どもを育てている家族と出会うことで、出産を決断できたという女性も少なくありません。 番組では、女性たちが納得して決断するためにはどうしたらいいのか、日米の模索を通して考えます。
290	ハートネットTV	シリーズ 出生前検査は何をもたらすのか	第1回 命の選択をめぐる模索		5118-1	

291	ハートネットTV	シリーズ 出生前検査は何をもたらすのか	第2回 どうしたら産み育てられますか		5118-2	<p>「どんなに頑張っても、今の日本では障害者は普通には生きられない」  「障害のある人と接する機会がありましたが、まさしくきれいごとでは済まない世界が広がっており、自分はこのような現実を選ぶ器量がないと痛感しました」番組のホームページに寄せられた、視聴者の皆さんの声です。</p> <p>シリーズの2日目は、産んだ後の支援について、どんなサポート体制があれば、少しでも安心して産むことができるのか、教育と就労を中心に考えます。</p> <p>仙台にあるケーキ屋で働く小林和樹さんは、周囲の理解と支えがあることで好きな職に就くことができたと言います。3月には、ニューヨークの国連本部で開かれた世界ダウン症の日記念会議に、一般企業で就労する数少ないダウン症の若者として参加しました。</p> <p>アメリカでも、障害のあるなしに関わらず、共に生きるための模索が続いています。</p> <p>ボストン市内にある、クラスの3分の1に何らかの障害のある子どもが通う小学校を取材。障害のない子どもたちにとっても、多様性を学ぶ機会となっています。</p> <p>番組では、どうしたら共に生きる社会を築いていけるのか、視聴者の皆さんからのご意見も紹介しながら考えます。</p>
292	ハートネットTV	シリーズ マイスタイル マイライフ 障害とともに	第48回障害福祉賞から(1)いつも前向きで—名取喜代美さん—		5119-1	<p>障害のある人自身の貴重な体験や、すぐれた実践の記録に贈る「NHK障害福祉賞」。今回は優秀賞に選ばれた名取喜代美さんの日常を取材しました。</p> <p>「私は生まれてきてから、まだ一歩も歩いたことがないままもう60年になります。もちろん自分では何もできません。義務教育も就学免除ときています。もうおわかりでしょう、私は最重度の障害者です」肢体不自由で言語障害もある中で、自身の障害をさりとした文章でつづる名取さん。40代で両親を亡くしてから、自宅で1人暮らしを続けています。</p> <p>24時間体制でヘルパーの介助を受けながら、かすかに残された指先の機能を使ってインターネットで食料や日用品を買い物したり、友人にメールを出したり…。年々体力が落ちる中でも、なるべく人まかせにせず、自分で判断して生活しています。</p> <p>番組では、名取さんの生き生きとした暮らしと共に、彼女の原動力となっている両親との思い出を、手記を元に紹介します。</p>

293	ハートネットTV	シリーズ マイス タイトル マイライ フ 障害とともに	第48回障害福祉賞 から(2)神様の弟子 と暮らす—三上洋子 さん—		5119-2	<p>障害のある人自身の貴重な体験や、すぐれた実践の記録に贈る「NHK障害福祉賞」。</p> <p>今回は最優秀賞に選ばれた三上洋子さん(53歳)の日常を取材しました。「人生という舞台は50歳までがリハーサルで、そこから本番が始まると聞いた。まさに50歳を迎える年に、私は13年間のバツイチ歴に終止符を打ち再婚をした」と始まる三上さんの手記。3年前、三上さんは自身の2人の娘と、再婚相手の慎二さん(50歳)の4人の子ども、あわせて6人の母親となりました。なかでも、慎二さんの長女・麻衣さん(25歳)には重度の知的障害があり、三上さんの人生の舞台は大きく変化していきます。</p> <p>番組では、母親として麻衣さんの障害に向き合う三上さんの日常を取材。夫や子どもたちと時に衝突し合い時に助け合い…。三上さんが夫や子どもたちと、ゆっくり築き上げてきた新しい家族のカタチをみつめます。</p>
294	ハートネットTV	シリーズ マイス タイトル マイライ フ 障害とともに	幸せ運ぶ画家たち		5120-1	<p>三重県志摩市。美しいリアス式海岸が続く港町に、ダウン症候群の若者たちが集う小さなアトリエがあります。大胆で自由奔放、カラフルな色使い。ここから生まれる温かく、優しい作品の数々は、「アール・イマキュレ」(むくの芸術)と呼ばれ、各地の病院や図書館にもギャラリーが作られるなど注目されています。</p> <p>アトリエを主催するのは、版画家の佐藤肇さん(67)と画家の敬子さん(65)夫妻。かつて、東京で絵画室を開いて佐藤さん夫婦は、受験戦争の中、子どもたちが良い点数が取れる絵の描き方を習いにくることに、疑問を抱いていました。そんな中で夫婦は、自然豊かな志摩に移住し、新たな気持ちでアトリエを開きます。そこで偶然、純粋に絵を描くことを楽しんでいるダウン症候群の子どもたちが描いた作品を見て、衝撃を受けたのです。</p> <p>佐藤さん夫婦は、彼らに絵の描き方を決して教えません。そばに寄り添い、そっと見守っています。心に感じたものが鮮やか色彩となってわき出てくる瞬間を待っているのです。</p> <p>番組では、見る人を幸せな気持ちにしてくれる「むくの芸術家たち」の世界をたっぷり紹介します。</p>
295	ハートネットTV	シリーズ貧困拡 大社会	第19回見えない世 界に生きる 知的障 害の女性たち		5121-1	<p>全国に200万人いるといわれる知的障害者のうち、何らかの福祉サービスにつながっているのは、わずか4分の1あまりの55万人。</p> <p>「一見わかりづらい」軽度知的障害者の多くは、適切な支援もなく見過ごされていると考えられています。このため、就職や社会に出る場面で挫折し、そこに貧困や家族関係の問題などが加わって、孤立してしまう人も少なくありません。ときには住む場所さえ失われる中、女性は生きていくためのギリギリの選択として、性産業に身を置いたり、男性宅を転々としたりする人も多いことが取材を通してわかってきました。男性より、路上生活などに伴う危険性が高いため、誰かに関わって生きているのです。しかし、障害ゆえにお金を騙し取られたり、暴力の被害に遭うことも多いのです。</p> <p>「普通に働きたかったけど、仕事が変わらず失敗ばかりだった。助けてくれる人もいなかった」。そう話す彼女たちを、どのように見つけ、サポートしていけばいいのでしょうか。実態を見つめ、支援のあり方を考えます</p>

296	バリバラ	テーマ「作業所」	工賃アップ大作戦第Ⅱ弾		5122-1	工賃月6千円の作業所を応援する企画第2弾。農業コンサルティングの匠が再生に挑んで5か月。職員や利用者の意識も変わり始めた。ゲストの松村邦洋もお助けマンとして商品売るための秘策を伝授。果たして工賃アップへの道筋は見てきたのか？
297	即興が世界を変える「大友良英と“音遊びの会”の仲間たち				5123-1	「あまちゃん」でおなじみ大友良英さんも参加している知的障害者とミュージシャンによる即興音楽グループ“音遊びの会”。本場ロンドンの観客の心をとらえた「音遊びの会」の英国ツアーに密着取材。帰国後、「音遊びの会」のある地元・神戸で行われた凱旋公演など同会が生み出す“新しい音楽”の魅力をあますところなく伝える。音楽を通じ、健常者と障害者のバリアをなくした“新しい社会”の可能性を考える特集番組
298	NHKニュース おはようニッポンから	障害者ホーム設置に壁・ともに暮らす解決を求めて			5124-1	1月26日にNHK「おはよう日本」にて、グループホームの建設に対する反対運動に関する内容が取り上げられました。
299	ハートネットTV	自閉っ子 学校へ	父が撮った240日		5125-1	先日の12月4日、および1月7日に放映された「首都圏ネットワーク」の内容を再構成したもの
300	働く	鳥羽哲平くん			5126-1	備前市にある自動車部品工場で1日7時間、製品を入れる袋を箱にかける作業や、段ボールの組み立て作業などを行っています。重度の知的障害を伴う自閉症で、小さい頃は、家から脱走を繰り返したり、パニックを起こしたりと、片時も目が離せなかったという哲平さん。しかし、「障害があっても、働いて税金の払える大人に育てたい」と願ってきたご両親の努力が実り、今、平日は仕事をし、休日は掃除・料理・洗濯などの家事をこなす、すごく働き者の大人になりました。そんな哲平さんが、働いたお金を何に使っているかというところ…。 それは、番組でお楽しみ下さい！！哲平さんの働く姿を見つめ、そして、とっても温かいご両親の思いに触れ、私自身も、「自分は、何のために働いているのかな？」と自問自答しながらの番組制作になりました
301	ハートネットTV	ブレイクスルー	#1 夢あふれるレストラン		5127	第1回の舞台は、京都府舞鶴市にある小さなフレンチレストラン「ほのぼの屋」。本格的なフランス料理を提供する、予約必須の人気店だ。特別な日を特別に祝いたいというお客をもてなす一流のサービスを担っているのは、統合失調症や知的障害、難病などを抱えた従業員たち。障害の特徴でもある強いこだわりや几帳面さが、逆に一流のサービスを生み出す力となっているという。もともとは、工賃が月に1～2万円というごく普通の「福祉作業所」だった店が、どのようにして一流レストランへと様変わりしたのか。そのブレイクスルーを探る。
302	ハートネットTV	NHKハート展「ホーホー」			5128-1	障害のある人が作った詩をもとに、各界で活躍する著名人がイメージを膨らませ、アート作品を仕上げる「NHKハート展」。今回は、京都市内に暮らす信田静香さん(10歳・ダウン症候群)の作品が生まれた背景を紹介します。静香さんフクロウが大好き。フクロウの気持ちになって書いた初めての詩「ホーホー」はどのようにして生まれたのでしょうか。静香さんの日常をVTRで紹介しながら詩の生まれた背景を探り、静香さんの豊かな感性に触れます。スタジオには、2才になるダウン症の子どもを育てる女優・タレント奥山佳恵さんをゲストに迎え、静香さんの成長をどのように感じたのか語り合います。

303	ハートネットTV	シリーズ マイスタイル マイライフ 障害とともに	幸せ運ぶ画家たち		5128-2	<p>三重県志摩市。美しいリアス式海岸が続く港町に、ダウン症候群の若者たちが集う小さなアトリエがあります。大胆で自由奔放、カラフルな色使い。ここから生まれる温かく、優しい作品の数々は、「アール・イマキュレ」(むくの芸術)と呼ばれ、各地の病院や図書館にもギャラリーが作られるなど注目されています。</p> <p>アトリエを主催するのは、版画家の佐藤肇さん(67)と画家の敬子さん(65)夫妻。かつて、東京で絵画室を開いて佐藤さん夫婦は、受験戦争の中、子どもたちが良い点数が取れる絵の描き方を習いにくることに、疑問を抱いていました。そんな中で夫婦は、自然豊かな志摩に移住し、新たな気持ちでアトリエを開きます。そこで偶然、純粋に絵を描くことを楽しんでいるダウン症候群の子どもたちが描いた作品を見て、衝撃を受けたのです。</p> <p>佐藤さん夫婦は、彼らに絵の描き方を決して教えません。そばに寄り添い、そっと見守っています。心に感じたものが鮮やか色彩となってわき出てくる瞬間を待っているのです。</p> <p>番組では、見る人を幸せな気持ちにしてくれる「むくの芸術家たち」の世界をたっぷりと紹介します。</p>
304	新日本紀行	8人のユートピア			5129-1	<p>竹の子村のめづみから 開村の経緯は、1971年トルコショック、続いて石油ショックの追い打ちがあり、希望に燃えて社会に巣立った知的障害児たちは、かたづけしから解雇の対象となった。</p> <p>一枚の解雇通知のハガキで簡単に職場を追われた教え子たちは、「クビにならない、バカにされない、安心して働けるところがほしい」と訴えてきた。解雇された障害児たちは誰にも頼らないで、「僕たちは新天地を求めてたけのこ村をつくろう」と考えた。</p> <p>熟慮の結果、「たけのこ村建設20年構想」ができたので教職を辞し、退職金、私財を投じて建設資金にした。</p> <p>1976年、岡山県吉備郡(現、倉敷市真備町)の山麓に入植、公的援助は受けず、山野を開墾、ランプと山水の耐乏生活から村づくりを始めた。山羊やニワトリを飼い、農耕生活を中心に、「備前焼、埴輪製作」の陶芸技法をマスターして自給自足の村づくりの体制を整えた。自立を目標に希望という道しるべをひたむきに</p>

305	NTV Time21	泣いて笑ってやっ たらできた			5129-2	<p>歩んだ努力が実を結び、陶芸家の登竜門といわれる「岡山県美術展」に備前大壺を出展し、「県展賞」に輝いた。また、数々の入選、受賞は大きな自信につながった。</p> <p>念願だったパリ(フランス)で「備前焼、埴輪展覧会」を開催し、国内外に大きな感動と反響を呼んだ。そして、経済自立を目指して、倉敷市美観地区で、たけのこ村の作品を展示販売する「ギャラリーたけのこ村」を開店するなど、名実ともいきいきと活動し、「自給自足の村づくり」から「経済自立の村づくり」への道のりを着実に歩んできた。</p> <p>「一杯の水を与えられるより、井戸を掘れ」 たけのこ村の哲学である。 知的障害者が、農耕と陶芸活動を通してハンディーを克服し、自ら社会自立の可能性を実証したことは、従来の「与える福祉」から「育てる福祉」への展開を意義づける一例として、全国の障害者に「やったらできた」と「生きる自信と希望」のメッセージを贈ることができた。 〔障害があるから不幸なのではない。障害児(者)を温かく見守り、育てていく環境と条件がないから不幸なのである。〕</p> <p>そして、大いなる夢と希望を抱いて、平成17年5月、新生たけのこ村が倉敷市玉島の丘陵地に桃源の郷たけのこ村ができた。 総面積5万平方メートル。自然と人間と動物が共生する村で、のんき、こんき、げんき、をモットーに 20年計画、100年構想の楽しい村づくりである。 新しい村づくりは、今まで歩んだ実践活動を活かし、ハンディーをもつ人、もたない人が共に暮らす平穏で心豊かな暮らし、悠久の時を刻む桃源の郷でありたいと願っている。</p>
306	バリバリ	テーマ「子ども」	学校自慢 ～大阪・ 松原高校～		5130-1	<p>新シリーズ「学校自慢」。障害のある子どもたちが通うバリアフリーな学校を紹介。今回は大阪府立松原高校。「自立支援コース」の生徒と他の生徒が障害の垣根なく活動を行っている。ゆるくて居心地のいい人間関係と、それを支えるユニークな取り組みを紹介。</p> <p>新シリーズ「学校自慢」。障害のある子どもたちが通うバリアフリーな学校を紹介。今回は大阪府立松原高校。「自立支援コース」の生徒と他の生徒が障害の垣根なく活動を行っている。ゆるくて居心地のいい人間関係と、それを支えるユニークな取り組みを紹介。</p>



307	君が僕の息子について教えてくれたこと				5131-1	いま無名の日本人の若者が書いた1冊の本が世界20カ国以上で翻訳され、ベストセラーになっている。タイトルは「The Reason I Jump」(日本語:「自閉症の僕が跳びはねる理由」)。著者は、当時13歳の東田直樹さん、日本で7年前に出版された、自閉症である自分の心の内を綴ったエッセイである。自閉症者自らが語る極めて画期的な作品だったが、ほとんど話題になることはなかった。それがなぜ突然、7年もたって、遠くイギリスやアメリカでベストセラーとなったのか。この本を英訳したのは、アイルランド在住の作家デイヴィッド・ミッチェル氏。彼にも自閉症の息子がいる。日本語教師の経験があるミッチェル氏は、東田さんの本を読んでまるで息子が自分に語りかけているように感じたと言う。息子はなぜ床に頭を打ちつけるのか、なぜ奇声を発するのか、息子とのコミュニケーションをあきらめていたミッチェル氏に希望の灯がともった。そしてミッチェル氏の訳した本は、自閉症の子どもを持つ、世界の多くの家族も救うことになった。ミッチェル氏はこの春に来日、東田さんと感動の対面を果たした。これは、日本の自閉症の若者と外国人作家の出会いから生まれた希望の物語である。
308	ハートネットTV	重症児 希望の旅へ 一家族・NPOの挑戦一			5132-1	生命維持装置を装着した身体障害・知的障害が共に重度な「重症児」の多くは、これまで、病院や自宅だけで過ごすことが一般的と考えられてきました。最近、人工呼吸器のバッテリーの改善などで、外出や観光を試みる家族が増えています。泊まりがけの旅は、あまりに困難が多すぎ、あきらめている家族がほとんどでした。そんな中、神戸市のNPOが、新幹線・飛行機での移動中の人工呼吸器バッテリー電源の確保や、バリアフリー対応の宿探し、かさむ費用を募金で集めるなど、旅行を望む重症児とその家族を支援し、家族旅行を実現させ始めています。「重症児が様々な事を実現できる社会を目指したい」というNPO、そして、「ある程度のリスクを引き受けながら、我が子の可能性を広げてあげたい」という家族の初めての旅への挑戦を見つめます。
309	ハートネットTV	夢の力を信じて			5132-2	高知県で障害者の支援を48年間にわたって続けている「土佐希望の家」。1歳から92歳までの133人が暮らすこの施設が、利用者ひとりひとりとじっくり向き合おうと2年前からある取り組みを始めています。障害のある人たちから夢や願いを聞き取り、職員らがその実現を手助けしようというものです。「女性職員とコーヒーを飲みにいきたい」という47歳の男性、「綺麗な格好をして家族写真を撮りたい」という40歳の女性…。夢を実現していく過程で見えてくるのは、本人やその家族の心の内。夢は、障害者やその家族にどんな力を与えてくれるのか。夢の力を信じて、利用者たちと向きあう福祉施設を見つめました。
310	バリバラ	子ども×バリバラ	学校をデザインするプロジェクト【前編】		5133-1	障害のある子どもたちが学校を楽しくするデザインに挑戦するシリーズの前編。「友だちが欲しい」「落ち着ける狭い場所が欲しい」学校で困っている様々なことを発見し、それをデザインにつなげていく。COWCOWと子どもたちが学校の「あたりまえ」に立ち向かう！
311	バリバラ	子ども×バリバラ	学校をデザインするプロジェクト【後編】		5133-2	障害のある子どもたちが学校を楽しくするデザインに挑戦するシリーズの後編。「友だちが欲しい」「落ち着ける狭い場所が欲しい」学校で困っている様々なことを発見し、それを解決するためのデザインをみんなで考える。子どもたちのSOSから、果たしてどんなデザインが生まれるのか？

312	ハートネットTV	君と歩む道 ―シングルファーザーと自閉症児の20年―			5134-1	<p>川崎市幸区の新保浩さん(49)は、自閉症の一人息子をもつシングルファーザー。</p> <p>生活の記録をホームページでつづりながら、男手一つで育てあげた息子の綾麻(りょうま)さんは、今年7月、20歳の誕生日を迎えました。</p> <p>ホームページの名前は、「そよ風の手紙」。苦しさを言葉にできず、パニックを起こし、自傷行為を繰り返す綾麻さん。悩みながら育児をする思いを、ありのまま伝えます。一方、初めて「バイバイ」を言った日など、ゆっくり着実に成長する息子の姿に喜びも。浩さんは、綾麻さんと向き合う日々の中で、価値観が大きく変わり、人生にとって何が大切なのかを教わってきたといいます。</p> <p>そして今、2人は新たな挑戦を続けています。特別支援学校を卒業した綾麻さんは、去年4月から地域の通所施設に通い始め、社会との関わり方を学んでいます。一方、浩さんは、会社を退職し、「そよ風の手紙」と名付けた施設の運営をスタート。自閉症の子どもや親が安心して過ごせる居場所作りに取り組んでいます。</p> <p>そんな浩さんに、うれしい出来事がありました。初めての人や場所が苦手だった綾麻さんが、施設の製品を納品する仕事に挑戦し、仲間と一緒に手伝えることができたのです。浩さんは、この出来事を綾麻さんが社会に踏み出せた大切な一歩だと感じています。</p> <p>一歩一歩、ともに歩んできた父と子。20年の心の軌跡を見つめます。</p>
313	ハートネットTV	変わる障害者支援	1私のことは私が決める		5135-1	<p>今、障害がある人への支援の在り方が大きく変わろうとしています。キツカケのひとつが、今年1月に日本政府が批准した「障害者権利条約」。中でも、支援の現場に大きなインパクトを与えているのが、“自分のことは自分自身で決める”=“自己決定”の尊重です。これまで、家族や介護関係者など、“本人以外の第三者”から見た「保護」の視点で考え、行われがちだった障害者支援。その結果、本人が主体性を失って依存的になり、自律した生活とはほど遠い暮らしを強いられている、という指摘が、当事者を中心に根強くあります。こうした支援の在り方を根本から改め、障害のある人の“自己決定”を社会全体でサポートすることで、自分らしく生きられるように社会を変革していこうという動きが、世界だけでなく日本でも広がろうとしています。ハートネットTVでは、国の「障害者週間」(12月3日～9日)に合わせ、どうしたら障害のある人が“自己決定”できる社会を実現できるか? そのためにはどんな支援が必要か? について3回のシリーズで考えていきます。第1回は、支援の現場で沸き起こる“私のことは私自身で決めたい”という声。そして、こうした“自己決定”を国をあげて実現しようとしているイギリスの取り組みを紹介。障害者支援の現場で起きている一大変革のうねりをレポートします。第1回は、支援の現場で沸き起こる“私のことは私自身で決めたい”という声。そして、こうした“自己決定”を国をあげて実現しようとしているイギリスの取り組みを紹介。障害者支援の現場で起きている一大変革のうねりをレポートします。</p>

314	ハートネットTV	変わる障害者支援	2あなたの決断を支えたい			5135-2	第2回は、日本の障害者支援の現場で始まった“自己決定支援”の模索を紹介します。判断能力が不十分な認知症の高齢者、知的障害、精神障害がある方の財産や権利を守るために、2009年に設立されました。現在、尾張東部地区5市1町（瀬戸市、尾張旭市、豊明市、日進市、長久手市及び東郷町）の住民を対象に、行政からの委託を受け、財産管理や介護サービスの契約の代行などの業務を行っています。
315	ハートネットTV	変わる障害者支援	3農業に挑む障害者たち			5136-1	第3回は、「みんな“一芸”の人になるー農業に挑む障害者たちー」。松山市に全国から注目を集める、障害者の就労支援施設があります。ほとんどの人に比較的重い障害があるにも関わらず、農薬を使わない自然栽培に挑み、年間100種類もの農産物を作っているのです。脳性まひで手先しか使えない人は種取り、細かい作業が苦手な人は鶏の世話など、障害の特性や個々の性格を見極め、「できる仕事」を見つけ出しています。誰でも自分の“一芸”が持てる農場で、少しずつ成長していく障害者たちの姿を伝えます。
316	ハートネットTV	「障害者虐待を食い止めるために	～閉ざされた世界を開く～			5137-1	「障害者虐待防止法」施行から3年。虐待を発見した際の通報が義務づけられたことにより、実態が明るみになる一方、今も表に出ていないケースも多いと見られています。平成25年度の1年間に全国の自治体への通報から明らかになった障害者福祉施設などでの虐待事例は263件。おとし11月には、千葉県内の福祉施設において職員から虐待を受けた入所者が死亡するという事件が発生しました。その後の調査で、外部の目が届かない環境下で複数の職員が虐待を繰り返していたことも発覚。その背景に、職員の俗人的な問題、ある施設の極端な例としてだけでは片付けられない、様々な要因が潜んでいたことも分かってきました。障害者への虐待を食い止めるためには、どうすれば良いのでしょうか。番組では、過去の事件の調査結果などをもとに、繰り返される障害者福祉施設での虐待の‘構造’を検証するほか、虐待を繰り返さないために始まった施設の取り組みから、今後の支援のあり方を考えます。
317	ハートネットTV	「エンジンの鍵を見つけた	～発達障害とのはざまで～			5137-2	幼い頃に発達障害の疑いがあるとされた少年。感情を制御できず友人関係が悪化、小学4年生の頃から早退を繰り返すようになった。しかし、不登校の子を専門に受け入れる全寮制の中学校に入学し、あることがきっかけで、たくましい成長が始まる。少年を見守る周囲の大人たちが、彼が本来持っている力をどのように引き出し、成長を促していったのか。それを彼はどう生かしていったのか。少年が自分の力で歩き出すまでの2年半の記録。

318	ハートネットTV	「発達障害とともに生きる家族」			5138-1	<p>第17回の主人公は、沖縄県那覇市で暮らす平岡家のみなさん。平岡家は6人家族の内、父親以外の5人が発達障害です。</p> <p>彼らは自分たちのことを「火星人」と呼んでいます。独特の感性は、日本人と外国人以上の開きがあるためです。</p> <p>「火星人」の彼らが地球に住むのは、正直、辛い。</p> <p>長男は、音や匂いに敏感。</p> <p>次男は、地球時間には馴染めず、スローペース。</p> <p>長女は、整理整頓が苦手。</p> <p>そして、次女は、せわしなく動き回るため、落ち着きがないように見えます。</p> <p>そんな彼らが一堂に会せば、それはまたそれでトラブル。</p> <p>お互いが理解ができないのです。そんな平岡家が、「自分たちが何者か」ということに気付いたのはわずか6年前。</p> <p>次男のトラブルから、「発達障害」という言葉を初めて知りました。</p> <p>以来、家族は、普通ということにこだわらず、「火星人」を宣言。</p> <p>地球で生活する「火星人」のプレイクスルーに迫ります。</p>
319	ウワサの保護者会	「うちの子ももしかして---?子供の発達障害」			5139-1	<p>近年、「発達障害」という言葉は広く知られるようになりました。</p> <p>しかしその理解や支援の手立てということになると、まだまだ不十分です。</p> <p>ともすれば「発達障害があるから受け入れられない」といった「排除」の理由にされてしまうこともあると、ある親御さんは話してくださいました。</p>
320	ETV特集	書家・金澤翔子30歳	～娘と母 新たな旅立ち～		5140-1	<p>いきいきとエネルギーに躍動する筆。全身から生み出される自由でのびのびとした「書」。金澤翔子さんは去年ニューヨーク国連本部に「世界ダウン症の日」日本代表として招待された。30歳となった翔子さんは、書家として成長したい一心で、一緒に暮らしてきた母・泰子さんに一人暮らしを宣言。泰子さんも自立を応援するため懸命に部屋探しを始めた。重さ25キロの大筆に初めて挑む翔子さん。親子の新たな旅立ちを見つめた。</p>
321	ハートネットTV	シリーズ東日本大震災から5年	「障害者たちの震災復興」		5141-1	<p>東日本大震災から5年。被災地の障害者や高齢者の復興に向けた歩みをたどる3回シリーズ。</p> <p>第1回は、震災を機に明らかになった、障害者の厳しい暮らしの実態を見つめます。</p> <p>宮城県仙台市の障害者が中心になってつくる自立生活センター「CILたすけっと」。震災の発生直後から被災した障害者に、おむつや酸素ボンベ、カテーテルといった物資を届けるなど、支援に奔走しました。その過程で浮かび上がってきたのは、震災前から多くの障害者が、自分らしく生きることを「障害があるから仕方ない」と諦め、家族以外の誰ともつながることなく不自由な暮らしを強いられてきた現実でした。人として“あたりまえの生活”を妨げているものは何でしょうか？震災前の暮らしに戻るのではなく、より多様な暮らし方を実現しようと歩み出した障害者や家族、支援者たちの歩みを見つめます。</p>

322	ハートネットTV	シリーズ東日本大震災から6年	福島・障害者福祉は今		5141-2	第3回は、原発事故によって避難生活を余儀なくされた障害者たちの5年を見つめます。県内外に避難している障害者にとって、インフラが未整備な故郷への帰還は、健常者に比べ、更にハードルが高く、思うように進んできませんでしたが、国が“集中復興期間”と定める時期が終わりを迎える今、ようやくその動きが活発化し始めています。富岡町から施設ごと群馬県に避難し、一度も帰っていなかった知的障害者の入所施設。榎葉町から避難し、内陸にあるいわき市で仮の事務所をもっていた精神障害者の通所施設やグループホーム。「もう一度ふるさとで暮らしたい」という夢を実現するため、格闘する障害者や支援者の姿を通して、震災から丸5年を迎える福島避難区域の障害者福祉の現状を見つめます。
323	ハートネットTV	シリーズ誰もが助かるために	第1回避難そのとき		5142-1	今年3月、仙台市で開かれた国連防災世界会議で、新たな防災の考え方に注目が集まりました。その名も「インクルーシブ防災」。障害者や高齢者などを含む、あらゆる人の命を支える防災を目指していこうという考え方です。災害の時、どうすれば障害者や高齢者など、の命を守るか？そのヒントを、3本のシリーズで探っていきます。 第1回は、「避難 そのとき」。東日本大震災では「障害者の死亡率」が「全住民の死亡率」の2倍にのぼったことが、NHKの調査によって明らかになっています。災害が起きたまさにその時、障害者をはじめとした災害時要支援者の避難をどのようにサポートし、命を守るか？について考えます。
324	ハートネットTV	シリーズ誰もが助かるために	第2回避難所生活を支える		5142-2	第2回は、「避難所生活を支える」。東日本大震災では、津波や建物の倒壊から生き延び、避難所にたどり着くことができても、その環境が障害に適応していないために、体調を悪化させたり、電気も水も食料もない自宅に戻ったりする障害者が大勢いました。求められる避難環境について検証します。
325	ハートネットTV	シリーズ誰もが助かるために	第3回“生活不活発病”を避け		5143-1	第3回は、「“生活不活発病”を避け」。東日本大震災の被災地では、長引く仮設暮らしの中、体調を崩す障害者や、震災前は元気だったのに寝たきりや車いす生活になってしまう高齢者が増えています。その最大の原因は“生活不活発病”。地域との絆が途切れ、家にこもりがちになるうちに、徐々に身体・生活機能が低下してしまう病気です。どうしたらこうした事態を防ぐことができるのでしょうか？東日本大震災の被災地の取り組みからそのヒントをさぐっていきます。
326	TBS人間とは何だー？	人と関わるのが苦手な脳	自閉スペクトラム		5144-1	関わらなければモメない？自閉症から見える「人と関わることの意味」世界的に増えているといわれる『自閉スペクトラム症』の人たち。彼らは、人と関わるのができないと思われていたが、最近の研究で“関わり方が違う”のだということがわかってきた。彼らのやり方に合わせて関わっていくと、彼らは劇的に変化していく。社会へ出ていく彼らを通して、“関わること”“モメること”と“人間の成長”の密接な関係を考える。

327	ハートネットTV	シリーズ 変わる 障害者福祉	第1回“医療的ケア 児”見過ごされた子 どもたち		5145-1	<p>3年前、障害者の生活を支える新たな法律として誕生した「障害者総合支援法」。医療の進歩や高齢化の進展によって障害者のニーズが変化中、この法律を見直す議論が進んでいます。今国会に改正案が提出され審議も開始、これまで制度の狭間にこぼれ落ちてきた人々を支援していけるのか、注目が集まっています。</p> <p>シリーズ第一回は、障害や病気のため、たんの吸引や経管栄養など日常的に医療的ケアが必要な子どもたちについて考えます。医療技術の進歩により、出産時に今までであれば救えなかった命が助けられるようになった一方で、生まれた後、医療的ケアが必要になる子供は増加しています。しかし、今までの福祉制度では、こうした子どもたちが地域で暮らすための支援を、十分に想定してきませんでした。医療的ケアには対応できないと断られ、幼稚園や学校、福祉施設にも通えず、保護者が家庭で孤立するケースが後を絶ちません。制度の狭間で見過ごされてきた「医療的ケア児」をどう支えていけるのか考えていきます。</p>
328	ハートネットTV	シリーズ 変わる 障害者福祉	第2回“高齢障害 者”65歳の壁		5145-2	<p>障害者への福祉サービスは、65歳を越えると「障害福祉サービス」から「介護保険サービス」に移行するという原則があります。ところが、介護保険に移行した後、受けられるサービスの量や質が低下したとの声が相次いでいます。</p> <p>下半身に麻痺がある68歳の女性は、福祉サービスの時間が、ひと月に30時間あまり減少。自力での入浴ができなくなりました。脳性麻痺がある68歳の女性は、リハビリの回数が減り、障害の状態が悪化しています。さらに、障害福祉にはあった「社会参加」への支援も、介護保険にはありません。</p> <p>厚生労働省は、全国の自治体に対して、「個別の状況に応じて、介護保険サービスだけでなく、障害福祉サービスも受けることができる」という旨の「通知」を出しています。しかし、具体的な対応は自治体の裁量に任されており、サービスの地域格差が生じているのが現状です。なぜこのような問題が起きているのか。解決に向けた方策はあるのか。これからの障害者福祉・高齢者福祉について考えていきます。</p>
329	爆報！THE フライデー	【女手1つで育児奮闘記】			5146-1	<p>【女手1つで育児奮闘記】</p> <p>元テレ朝アナ・龍円愛梨は今…壮絶人生！</p> <p>未婚の母…息子がダウン症…</p> <p>その裏には出生前診断の“見逃された兆候”が！</p> <p>アルバイトをしながら女手一つで育児に奮闘する彼女に完全密着！</p> <p>その日常生活とは…？</p>
330	ハートネットTV	続・誰も取り残されない防災	あきらめを希望に		5146-2	<p>東日本大震災から丸5年を迎えるにあたり、3月5日(土)に放送したEテレ特番・ハートネットTV+「誰も取り残さない防災」。番組では、1800人にのぼる要支援者へのアンケートなどをもとに、高齢の人や障害のある人の防災がどこまで実現できているのかを検証、関係者をはじめ大きな反響を呼びました。</p> <p>そこで今回、その反響に応じて、障害者の立場から「今、できること」を具体的に考えていきます。これを見れば、“どうすればいいかわからなかった”いざという時の備えが、“すぐにできる”に変わる!?高齢の人、障害のある人、そしてその家族、必見の生放送。</p> <p>生放送中、Twitterでみなさんの声を募集します。</p>
331	ハートネットTV	緊急報告・熊本地震	(1)障害者・高齢者は今		5147-1	<p>4月14日夜に発生し、震度7を記録した熊本地震。</p> <p>障害のある人、高齢者の置かれた状況、必要な支援についてなど、現地を緊急取材して生放送で伝えます。</p> <p>手話通訳の生放送、生解説をのびのびと、被災した障害者、高齢者、現地の災害</p>

332	ハートネットTV	緊急報告・熊本地震	(2)どう支える被災地の要支援者		5147-2	手話通訳や生子幕、生解説をつけながら、被災した障害者・高齢者、現地の当事者を心配する家族や関係者に向けて、必要な情報を提供します。
333	NHKスペシャル	自閉症の君が教えてくれたこと			5148	東田直樹さんは、会話ができない重度の自閉症ですが、文字盤やパソコンを前にすると自分の意思を伝えられるという世界的にも極めてまれな能力を持っています。2年前には13歳の時に書いたエッセイが、同じ自閉症の息子を持つ、アイルランド在住の高名な作家デビッド・ミッチェル氏の目にとまり、翻訳され、世界30カ国でベストセラーとなりました。直樹さんは謎に包まれた自閉症の世界を明かし世界に衝撃を与えました。それから2年がたち、直樹さんはプロの作家として、病気や障害などハンディキャップを抱える人たちに向けてエッセイや小説を書いています。この夏、私たちは直樹さんの思索の旅に同行しました。一般的なコミュニケーションを取れない自分だからこそ、救える人がいるのではないかと考え、ミッチェル氏の住むアイルランドを訪ね、自閉症の息子と出会い、その心の声に耳を澄ませました。さらには、北九州に暮らす認知症の祖母にも正面から向き合い、記憶を失いつつある祖母の幸せを見出そうとしました。ハンディキャップを抱える人は、どう幸せを見つけていけばいいのか、突然、若くしてガンを患うことになった私の視線で、直樹さんの葛藤と成長を描く番組です。
334	ハートネットTV	シリーズ相模原障害者施設殺傷事件	第1回 匿名の命に 生きた証を		5149-1	今年7月、相模原の障害者入所施設「津久井やまゆり園」でおきた殺傷事件。「障害者週間」(12月3日～9日)を機に、事件が投げかけた重い問いに向き合う2本シリーズの第1夜。事件後、警察は『遺族のプライバシー保護』を理由に、被害者を匿名で発表しました。われわれが知り得たのは、年齢と性別のみでした。亡くなった19人の入所者はどんな人物だったのか、家族とどんな関係を結んでいたのか、そして何を楽しみに暮らしていたのか。1人1人の“人間味あふれる情報”は隠されたまま、「障害者は不幸を作ることしかできない」といった容疑者の言葉だけが飛び交っています。そんな中、津久井やまゆり園の元職員たちが、殺された人たちの人生がどんなものだったのか、その手がかりを集めようとしています。「殺された人たちの声なき声を、たとえ痛みを伴ってでも、拾い集めたい。このまま社会からも葬られてしまったら、彼らは二重に殺されたも同然ではないか。」それぞれが胸にしまい込んできた記憶を思い起こしながら、昔働いていた他の職員や関わりのあった地域の人々などを訪ね、彼らの『生きた証』を拾い集めようとする元職員たちの姿を見つめます。

335	ハートネットTV	シリーズ相模原障害者施設殺傷事件	第2回 言葉はなくても一重度知的障害のある人たちー		5149-2	<p>7月に相模原市の障害者入所施設「津久井やまゆり園」で起きた殺傷事件。「障害者週間」(12月3日～9日)を機に、事件が投げかけた重い問いに向き合う2本シリーズの第2夜。</p> <p>知的障害のある入所者43人を殺傷した植松聖容疑者は取り調べの中で「意思疎通ができない人たちを刺した」と語りました。</p> <p>重度の知的障害のある人たちは言葉によるコミュニケーションが難しく、一般の人には理解のしがたい自閉的な傾向や、突然暴れたりする「強度行動障害」を伴うこともあります。障害者は「不幸を作ることしかできない」という容疑者の意見に、ネット上では同調の声も上がりました。しかし、私たちが実際に知的障害のある人たちの日常を目にする機会は多くありません。</p> <p>事件で被害にあったような意思疎通の難しい人たちは、どのような日常を送っているのでしょうか。周囲の人は本人とどう関わっているのでしょうか。コミュニケーションが難しい子どもたちが少しずつ成長し、穏やかに暮らすための“療育”に取り組む施設。そして重度障害がある人の“意思”を毎日の細かな反応からすくい取る地域支援の現場など、言葉に頼らないコミュニケーションで心を通わせあう人たちの姿を見つめ、“いのちの尊さ”について考えます。</p>
336	ハートネットTV	チエノバ×バリバラ	こんな時どうする！？障害者差別解消法		5150-1	<p>「障害者差別解消法」は、行政や教育・金融機関、飲食店などに対して、障害者を不当に差別することを禁止するとともに、障害者が不便を感じないよう“合理的配慮”を求めた法律。</p> <p>施行から8ヶ月が経ち、チエノバで番組のカキコミHPを通して障害当事者から意見を募集したところ、レストラン、学校、電車、職場など、生活の様々な場で「今でも不当な差別がある」と感じたエピソードが多く寄せられました。また事業者からは「障害者を特別扱いしなきゃいけないの？」といった質問も。</p> <p>今回は、ゲストに「バリバラ」メンバーが出演。カキコミに寄せられた具体的な事例や、「もっとこんな配慮があれば助かる！」「こんな時、どんな配慮をすればいいの？」などアイデアや疑問をもとに、‘差別のない社会’について考えます。</p>



337	ハートネットTV	私たちは発信するーパンジーメディアの挑戦ー			5150-2	<p>今年9月、知的障害のある人々が自ら番組を制作し発信する、日本初のインターネット放送局が開局しました。ドキュメンタリーやドラマなどを通し、一般の人にはあまり知られていない、知的障害者の思いを多くの人に届けようというものです。</p> <p>取り組むのは、東大阪で知的障害者の支援をしている社会福祉法人・創思苑(通称パンジー)。そこで活動する25人の当事者が、この2月から開局に向け準備を進めてきました。最初は手探りでカメラの扱い方を学び、次に自分の感じたことを表現する練習を。そして2ヶ月後には、みんなでドキュメントを制作するまでに。</p> <p>日本で知的障害のある人は、70万人以上もいると言われています。しかし、彼らがどのような人で、どんな事を考え、何を望んでいるのか、一般の人が彼らの事を知る機会が少ない。「地域で普通に暮らしたい」という願いを届けたい。そんな熱い思いが、インターネット放送の挑戦につながりました。</p> <p>番組では、インターネット放送開局に至る彼らの挑戦の日々を見つめます。制作中に相模原市の障害者施設で殺傷事件も発生、それに対する思いも急きょ盛り込みました。制作を通してメンバーにどんな変化が生まれたのでしょうか。またインターネット放送の挑戦が、彼らを取り巻く社会をどう変えていくのか、その可能性を探ります。</p>
338	バリバラ	バリバラジャーナル	障害者虐待		5151-1	<p>「バリバラジャーナル」、今回は、年間300件以上起きている福祉施設での障害者虐待について考える。実際に問題のおきた施設の関係者を取材。なぜ虐待は起きてしまったのか。施設職員の意識調査から浮き彫りになったその背景とは？また、支援員の緊急座談会を開催し、現場が直面する過酷な状況を赤裸々にトーク。更に、虐待をなくす先進的な取り組みも紹介し、問題解決へのヒントを探る。</p>
339	バリバラ	障害者差別解消法ってなに？			5151-2	<p>4月1日に施行された「障害者差別解消法」。障害のある人に対して不当な差別的取り扱いを禁止し、「合理的配慮」を提供することが役所や企業、民間事業者にも義務づけられた。でも、まだまだ知られていないこの法律。そこで今回は、誰にでも分かるバリバラ流授業を開講！ どういう事例が差別にあたるのか？ また合理的配慮とは何なのか？ 寝たきり芸人「あそどっぐ」とダンスユニット「エグスプロージョン」の異色のコラボで制作した障害者差別解消法のプロモーションビデオも披露する。</p>

340	ハートネットTV	障害者殺傷事件から半年	次郎は「次郎という仕事」をしている		5152-1	<p>去年7月、相模原の障害者施設で多くの入所者が襲われた事件は、障害のある人たちやその家族に大きな衝撃を与えました。「ハートネットTV」では、事件発生直後から、そうした人たちがどんなことを感じているのか、声を募集し、伝え続けてきました。これまでに届いたカキコミ・メールは合わせて500件以上。その中に、ひとときわ目を引く一通のカキコミがありました。タイトルは、「次郎は「次郎という仕事」をしている」。三重県に住む50代の女性が、重度知的障害のある息子「次郎」さんについて綴ったものです。</p> <p>事件後、容疑者が表明した「障害者は不幸を作ることしかできない」との考えには、ネット上で同調する声も上がり、経済効率や生産性が重視される社会の中で、障害者は“お荷物”だという風潮が不気味に広がっています。そうした中、この女性は、「健常者との間にある重い扉を開けること」が、息子の「仕事」と胸を張ります。いったいどんな思いからこのカキコミをくださったのか、番組キャスターの山田賢治アナウンサーが訪ね、親子2人の日常に密着。事件から半年を迎える今、“社会の中に障害者が存在することの意味”を改めて考えます。</p>
341	ハートネットTV	シリーズ 暮らしと憲法	第三回 障害者		5152-2	<p>憲法に具体的な文言として明記されていない障害者。しかし今日では様々な法が整備され、社会生活支援も提供されるようになってきています。その実現に大きな役割を果たしてきたのは他でも無い当事者の声。それはまさしく憲法12条が謳う「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない」という理念そのものでした。現在もなお「不断の努力」を続ける障害者、そして憲法が制定された戦後からの障害者運動の歩みを振り返りながら、私たちはどう憲法と付き合うべきなのかを考えます。</p>
342	NEXT 未来のために	「この町で生きる～障害者福祉をめぐる模索～」			5152-3	<p>長野県の障害者の入所施設「のぞみの郷・高社」。社会と分断された福祉の現状を見直そうと施設の解体を決断。「共生社会」は実現されるのか。人々の葛藤を見つめる。</p> <p>知的障害者など37名が入所する「のぞみの郷・高社」(長野県)。「社会と分断された障害者福祉を根本から見直すべきだ」と考え、今後3年を目標に施設を解体することを決断した。しかし、地域で唯一の入所施設がなくなること、家族や地域住民は戸惑いを隠せない。「受け皿がなくなる」「周りとのトラブルを避けるには施設は必要だ」などの声があがっている。「共生社会」は実現されるのか。施設解体をめぐる葛藤を見つめる。</p>

343	ETV特集	「人知れず 表現し続ける者たち」			5153	<p>正規の美術教育を受けていない人々が創る独創的な美術作品=アール・ブリュット。日本各地の作家たちの暮らしと創作の現場に分け入り、作品がもつ圧倒的な力の秘密に迫る。</p> <p>「アール・ブリュット(生の芸術)」正規の美術教育を受けた経験のない人々が創る、何ものにもとられない独創的な美術作品のことで、近年世界的に注目が集まっている。担い手の中には知的障害や精神障害のある人も多く、作品はなかなか世に出てこないが、圧倒的な迫りに満ちている。誰のためでもなく、黙々と表現し続ける人たちが放つ凄(すご)み日本各地の作家たちの暮らしと創作の現場に分け入り、作品がもつ力の源泉に迫る。</p>
344	バリバラ	ココがズレてる健常者 障害者100人がモノ申す！			5154	<p>日頃、健常者の行動を“ありがた迷惑”だと感じつつも、思いを口に出せずに胸に秘めてきた障害者たち。この番組では、そんな健常者にモノ申したい障害者100人が大集結！日ごろ生活する中で直面する様々な不満・疑問を、健常者にぶつけていく。それを聞くのは、人気“健常者”タレントたち。障害者たちの主張に対し、理不尽だと感じる部分には容赦なくツツコミを入れていく。これは障害者に対する健常者の意識を炙り出し、タブーなき本音トークにドキドキしながら、障害者への見方をひっくり返していく前代未聞のバリアフリーエンターテイメント番組だ！</p>
345	自閉症の君との日々				5155	<p>2014年放送の「君が僕の息子について教えてくれたこと」、2016年のNHKスペシャル、自閉症の作家東田直樹さん取材した2つの番組をまとめた感動の総集編。</p> <p>自閉症の作家・東田直樹さんは、日常会話は不可能だが、文字盤で意志を伝えられるという極めてまれな能力を持っている。私たちは、東田さんを3年間に渡り取材してきた。その間に東田さんは、世界的ベストセラーを生み、作家として大きく成長した。一方取材を続けてきたディレクターは、ガンとなり、自らハンディキャップを抱えることになった。生きづらさを抱える人がどう生きればいいのか、ディレクターが見つめた3年間である。</p>

346	ハートネットTV	シリーズ 障害のある子どもと学校	発達障害		5156	<p>「他人とのコミュニケーションが苦手」「席に座ってられない」「文章を読むことが難しい」といった発達障害のある子どもたち。公立小中学校の通常学級に通う子どもの6.5%にその可能性があるという調査もあります。</p> <p>障害者差別解消法が施行されて一年、こうした子どもたちが通常学級で学べるよう、学校が「合理的配慮」をすることが義務づけられましたが、必要な支援が受けられない子どもたちがまだたくさんいます。「LD(学習障害)のため板書が写せず、タブレットを使いたいが認められない」「特定の子とどうしてもうまくつきあえない。クラス替えの配慮してほしい」。番組ホームページには100件を超す声が寄せられています。</p> <p>どうしたら一人一人の子どもが、必要な支援を受けながら学ぶことができるようになるのでしょうか。番組に寄せられた声を元に、発達障害者支援法の成立に深く関わった野田聖子さん、発達障害に詳しい筑波大学の柘植雅義さんとともに考えます。</p>
347	ハートネットTV	亜由未が教えてくれたこと			5157	<p>昨年7月に起きた相模原事件。NHK青森でディレクターをしている僕・坂川裕野(26)は、強い衝撃を受けました。妹の亜由未(23)は、殺された人々と同じ重度の障害者。「障害者の家族は不幸だ」という犯人のことはばを否定したかった僕は、実家に戻り亜由未にカメラを向けることにしました。</p> <p>脳性まひと重度の知的障害のある亜由未。日常生活には、体位交換や経管栄養などの介助が欠かせません。ところが僕は、小さい頃から亜由未の世話や介助をほとんどしたことがありませんでした。そこで、亜由未の知らない一面や、家族の苦労を知ろうと、亜由未の介助をさせてもらうことに。</p> <p>ヘルパーさんや親からは、よく笑うと評判の亜由未。僕も亜由未を笑顔にすることで、自分の家族が幸せなんだと示したい。すぐに笑わせようと試みます。それにもかかわらず、一向に笑顔を見せない亜由未。「一体何を考えているんだろう」「どうしたら楽しんでもらえるんだろう」。わからないまま、介助の日々が過ぎてゆきます・・・初めての介助を通じて、妹・亜由未は何を覚えてくれたのでしょうか。ディレクターが自身の家族にカメラを向けた1か月間の記録。</p>

348	NHKスペシャル	「発達障害～ 解明される未 知の世界」			5158	<p>小中学生の15人に1人と言われる「発達障害」。これまで、主に社会性やコミュニケーションに問題がある障害として知られてきたが、最新の脳科学研究や当事者への聞き取りにより、生まれつき、独特の「世界の見え方・聞こえ方」をしているケースが多いことがわかってきた。多くの人にとっては何でもない日常空間が、耐えられないほどまぶしく見えたり、小さな物音が大量に聞こえてパニックになったり。その独特の感覚・認知が、実は、社会不適応につながる原因のひとつになっていたのだ。</p> <p>この世界を解き明かし、周囲が理解することで、発達障害の当事者の生きづらさは軽減。さらに「新たな能力」を引き出すことにもつながると、世界の教育・ビジネスの現場が注目している。</p> <p>身体障害と違い、「見えにくい障害」と言われる発達障害。番組では、当事者の感覚・認知の世界を映像化。これまで誰にも言えなかった、わかってもらえなかった当事者の思いを生放送で発信する。周囲から「空気が読めない、つきあいつらい人」などと誤解されてきた行動の裏にある「本当の理由」を知ったとき、あなたの常識が大きく変わる。</p>
349	ハートネットTV	シリーズ 罪を 犯した発達障 害者の”再出 発”	第1回 少年院の 現場から		5159-1	<p>近年、刑務所や少年院といった現場で「発達障害」が注目されています。発達障害に対する理解や支援が社会の中で不足する中、不適応や“問題行動”を止められず、犯罪に至ってしまう人が多くいることが分かってきたからです。発達障害者の再出発のために何が必要なのか。シリーズ第1回は、少年院の現場から考えます。</p> <p>2012年、法務省が実施した全国の少年院職員に対する問題意識の調査において、回答者2,299人中34%が「処遇困難者の増加」を問題として挙げました。こうした人たちには、いわゆる「反省」を基本とするこれまでの矯正手法が通用せず、更生への道筋が描きづらいのが現状です。法務省はその課題を認識し、2015年に少年院法を改正。発達障害者への対応の道筋を示したガイドラインの制作や、福祉と連携した支援など、対策に乗り出しました。</p> <p>番組は、全国でまだ数少ない、発達障害者を念頭に置いた支援教育課程「N3」を専門に扱う少年院を取材。その現場から、発達障害のある少年たちが罪を犯してしまった背景、更生にかける教官たちの情熱、新たな矯正教育のアプローチを伝えます。</p>

350	ハートネットTV	シリーズ 罪を犯した発達障害者の”再出発”	第2回 出所、そして社会へ		5159-2	<p>近年、刑務所や少年院といった現場で「発達障害」が注目されています。発達障害に対する理解や支援が社会の中で不足する中、不適応や“問題行動”を止められず、犯罪に至ってしまう人が多くいることが分かってきたからです。発達障害者の再出発のために何が必要なのか。シリーズ第2回は、刑務所や少年院から出た後、社会へ復帰するための支援について考えます。</p> <p>罪を犯した発達障害者の中には、出所した後も、障害への適切な支援を受けられないまま過ごし、結果として再犯を繰り返してしまう人も少なくありません。入所中から本人と面接し、必要な福祉サービスにつないで住まいや仕事を確保、生活を安定させる役割を担う「地域生活定着支援センター」。全国にあるセンターの中でも豊富な実績がある長崎県の取り組みから、発達障害者への支援の現状と課題をみていきます。また長崎の福祉施設では、障害者の再犯を防ぐための専門的なトレーニングを始めています。『ハートネットTV』では5年前に、この施設で訓練するアスペルガー症候群の男性取材しました。今も長い時間をかけ社会復帰への道を歩む男性への継続取材から再出発へのヒントを探ります。</p>
351	ハートネットTV	WEB連動企画 “チエノバ”	障害のある子どもと学校・反響編		5160-1	<p>組ホームページに寄せられる声を、誰もが生きやすい社会にするための「知恵」に変えていくシリーズ、WEB連動企画“チエノバ”。月1回の生放送です。</p> <p>6月のテーマは「障害のある子どもと学校」。5月2日、3日に放送した2回シリーズでは、医療的ケアの必要な子どもや発達障害の子どもが直面する課題について取り上げ、それぞれ100件を超すカキコミが寄せられるなど、大きな反響がありました。</p> <p>そこで、今回のチエノバでは、シリーズで紹介しきれなかったカキコミや、放送後に寄せられたたくさんのご意見に、改めて耳を傾けます。さらに、その他の障害がある子どもの就学・通学の悩みについても、新たに体験談・メッセージを募集。Twitterの声も織り交ぜながら、どんな子どもも希望する教育を受けられるようになるために、社会はどう向き合えばいいのか、考えていきます。</p>

352	ハートネットTV	もうひとつの居場所	—知的・発達障害のある人たちが集うサッカークラブ—		5160-2	<p>知的障害や発達障害がある人たちが集まるサッカークラブ、FCTラッソス。このクラブに所属するのは高校生以上で、20代の若者が多く、仕事をしながらラッソスの練習に参加しています。</p> <p>ラッソスが誕生したのは14年前。知的障害がある人たちがスポーツを楽しむ場が少ない中、プロサッカーの育成選手を指導していた吉澤昌好さんが、幼児から中学生を対象としたサッカースクールを作ったのが始まりでした。</p> <p>チームスポーツが得意ではない子どもたちに対して、吉澤さんは、人を思いやること・仲間の大切さをサッカーを通して子どもたちに伝えてきました。サッカースクールに通っていた当時中学生だった少年は、立派な社会人になり、今でもラッソスの練習に通っています。</p> <p>大人になった彼らですが、社会に出て新たな悩みを抱えます。職場の人たちとうまくコミュニケーションが取れないこと。環境の変化についていけないこと。そんな悩みを抱えながら、居場所を求めラッソスに入った青年もいます。</p> <p>人とかかわることの難しさを経験した彼ら。それでも仲間を思い、その困難さと向き合おうとします。FCTラッソスの歩み見つめます。</p>
353	BS世界のドキュメンタリー	ぼくがこの世界で生きる価値			5161	<p>デンマークに暮らす脳性まひの若者・ヤコブが、「自分がこの世界に生きる価値とは何か？」と自問し、答えを出すために様々な人と対話。それを自作の演劇にまとめ王立劇場に立つ。</p> <p>27歳になったある日、ヤコブは「障害を持つ自分がこの世界に生きる価値とは？」と考え始める。脳科学者、哲学者、心理学者らとの対話を通して自分自身を見つめ、「普通の人間として扱ってもらえない」ともがき苦しんだ体験をもとに演劇の脚本を書き、自ら演じることを決意する。さまざまな葛藤や困難を乗り越え、友人たちに支えられながら、最後は満席の王立劇場の舞台に立つ。</p>
354	BS世界のドキュメンタリー	ダウン症のない世界？			5162	<p>自らもダウン症の息子を持つ女優・サリーが、出生前診断の結果を受けて中絶を選ぶ女性が多いことに疑問を感じ、医師や制度の問題点を探りながら社会の多様性を訴える。</p> <p>出生前診断の精度が上がった結果、イギリスではダウン症の子どもが生まれる確率が高い場合、90%の女性が中絶を選ぶ時代になっている。番組のプレゼンターであるサリーは女優で脚本家。11歳になる息子のオリーはダウン症だ。サリーは、自分の実感としてオリーがいることに幸福を感じているにもかかわらず、世の中はダウン症を排除する方向に向かっているのではないかと、明るく前向きなサリーが当事者たちに体当たり取材する。</p>

355	ハートネットTV	広がる“農福連携”	—新しい地域のカタチ—		5163-1	人手不足の農家と、低賃金に悩む障害者。この両者が手を結ぶ“農福連携”と呼ばれる取り組みが近年注目を集めています。障害者の雇用を始めたことで、売り上げを拡大し続けている農家。自ら農地を借り受け主体的に農業に取り組む福祉事業者などが集まり、農福連携の可能性について考えます。静岡県浜松市にある京丸園は、熟練者にしか出来ないと思われていた作業を、障害者でもできるように道具ややり方の工夫を重ねてきました。その結果、農薬を使わずに済むようになるなど、作物の付加価値を高めることにもつながり、20年前に比べ売り上げを5倍にまで拡大しています。東京都多摩市で精神障害者の支援を行うNPO法人・多摩草むらの会では、自ら農地を借り受け農業に取り組むことで、知的や身体の障害のなかで雇用率がもっとも低い精神障害者の自立を目指しています。こうした経済的なメリットに加え、実際、障害者との出会いで新たな張り合いを得たという農家や、地域とのつながりを得て心身の状態がよくなったという障害者は数多いと言います。番組では、農家や専門家が集まり、農福連携の現状と課題について考えます。
356	ハートネットTV	シリーズ 相模原障害者殺傷事件から1年(仮)(1)			5163-2	「知的障害者は嫌い、独り言も不気味」「生産性のない障害者を守れない」「障害者は不幸」。これは、事件後番組に寄せられた声の一部です。事件を悲しむメッセージが番組に多く寄せられる一方で、犯人に同調する声は今も届きます。19もの命を奪う事件は、なぜ起きたのか。ハートネットTVでは、1年の節目に、3夜連続で事件の知られざる背景や、沈黙してきた関係者の声に迫りつつ、様々な角度から改めて事件を見つめ直します。24日は歴史編。1964年にできた「津久井やまゆり園」。事件までの半世紀を超える施設の歩みは、日本の障害者施設の歴史を象徴するような道のりでした。元職員や入所者の家族の声から、その歩みを描きます。
357	ハートネットTV	シリーズ 相模原障害者殺傷事件から1年(仮)(2)			5164-1	25日は重い知的障害の人の暮らしのあり方がテーマ。やまゆり園の入所者たちも今、この先どんな形で暮らしていくのか選択を迫られています。国の政策が「施設から地域へ」を標榜する中、本人や家族の意思を尊重しながらよりよい暮らしの場を模索している、障害者施設やNPOの取り組みから考えます。
358	ハートネットTV	シリーズ 相模原障害者殺傷事件から1年(仮)(3)			5164-2	事件から1年の26日は、生放送。冒頭で紹介したような障害者を否定する声にどう向き合うのか。「差別はダメ」という正論だけで終わらずタブーなしで「障害者」の今に、スタジオゲストと迫ります。



359	ETV特集	「亜由未が教えてくれたこと」			5165	19人が殺された相模原の障害者殺傷事件から1年。「障害者 は不幸を作ることしかできない」逮捕された男の言葉を否定しようと、僕は重度の障害者の妹にカメラを向けた。去年7月26日、相模原市の障害者施設で入所者ら46人が 次々と刺され、19人が亡くなった。逮捕された男は「障害者は 不幸を作ることしかできない」と言った。NHK青森でディレクターをしている僕の妹・亜由未は、犠牲者と同じ重度の障害者。障害者の家族は不幸じゃないと伝えたくて、妹にカメラを 向けることにした。亜由未に対して抱く家族それぞれの思いを、僕は何も知らなかった。介助を通じて向き合った1か月の記録。
360	ハートネットTV	NHKハート展	「たうえするひ」		5166-1	「第22回NHKハート展」。障害のある人がつづった詩に、各界の著名人が想像を膨らませてアートで応えるコラボレーションです。今回は、三重県四日市市に暮らす小川ほたるさん17歳の詩「たうえするひ」を紹介します。ほたるさんは、生後一ヶ月でダウン症と診断されます。ほたるさんの成長とともに、母の真理さんは、感覚の過敏もあることに気づきます。外からの刺激を過剰に感じてしまうため、苦手なことがあったり、行動が制約されたりすることがあります。ところが、ほたるさんは、想像することで、自分の世界を豊かにしていきます。想像の中では、感覚の過敏にとらわれずに、好きな所へ行って、何でも楽しむことができます。詩の世界では、ほたるさんは思いのまま。入選作「たうえするひ」は、独自の空想から生まれました。スタジオには、ほたるさんの詩に作品を寄せたフラワーアーティストの赤井勝さんと、今回ハート展に参加しているアーティストのAIさんが登場。ほたるさんの豊かな世界を味わい、かわいらしい乙女心にもふれます。
361	ハートネットTV	山の、上でーある重度知的障害者施設の日々ー			5166-2	日本の施設福祉の象徴と言われる、国内唯一の国立の知的障害者入所施設「のぞみの園」。群馬県高崎市の市街地を見下ろす観音山の上の広大な敷地に、北海道から鹿児島まで全国から集められた重度知的障害のある人たち約200名が暮らしています。重い障害を理由に地域社会には居られないとして、故郷から遠く離れた山の上に来たのが半世紀前、20代のとき。いま、平均年齢65才、最高齢92才と高齢化が進み認知症なども患う中で最後の時を過ごしています。のぞみの園はもともと、障害者が集団で暮らし理想的な“社会”を作る「コロニー」として計画された場所でした。しかし14年前、「施設から地域へ」という福祉の潮流のなかで、園は終の棲家としての新たな入所を停止。いまでも園に残る特に重度の知的障害のある人たちは、高齢化や地域サービスの不在などで、故郷に帰ることなく生涯を終える見込みです。“山の上”で住人たちはこれまでどのように生き、残りの人生をどのように過ごすのでしょうか。これまで「時代遅れ」として社会の目が向けられてこなかった入所施設にあえてカメラが入り、重度知的障害のある方たちの姿を静かに見つめます

362	奇跡体験アンビ リバボー	奇跡の会社 日本一幸せな 従業員とは?	日本理化学工業		5167	<p>神奈川県・川崎市にある日本理化学工業。社員85人の中小企業だ。今から81年前に、現在 社長を務める隆久さんの祖父が創業。チョークを製造する会社であり、当時、日本にはなかった粉が飛び散りにくい『ダストレスチョーク』を開発、日本中に定着させた。</p> <p>その後、後を継いだのが、隆久さんの父にあたる泰弘さん。だが、80年代にホワイトボード登場すると、それまで主流だった黒板が減少。90年代に入ると、チョークの需要は激減していた。</p> <p>photo そんな頃、隆久さんはアメリカに留学中だったが、父の頼みを受け帰国、経営に加わった。アメリカでマーケティングの勉強をしてきた隆久さんは、会社の行く末に大きな不安を抱いた。</p> <p>実は、父・泰弘さんは、ある時期から知的障がい者を雇うようになっていた。隆久さんが入社した時には、社員の約7割、63名が知的障がい者。彼らは主力商品であるチョークの生産に関わる重要な仕事を任されていた。</p>
363	ガイアの夜明け	もう一つの働 き方改革			5168	<p>もし自分が病気やけがなどで重い障がいを負った時、その後、働き続けることはできるのか？そして成果を上げて、やりがいを見いだしていけるか？健常者だけの目線ではない、ハンデキャップを負った人々と共に進める「働き方」を考える。今年4月から国は、社員50人以上の「一般企業」に対し、障がい者の法定雇用率を2.0%から、2.2%に引き上げた。障がいのある人も「企業」で働ける環境を整えるよう、その門戸を開く方針を打ち出している。企業にとって障がい者を雇用し、健常者と共に働ける職場作りを進めるにはどうしたら良いのか？試行錯誤が始まっている。その一方で、就労を支援する「事業所」で障がい者が突然解雇され、放り出されている事態が次々に起きていた。新たな「ブラック労働」の実態を追跡。「もう一つの働き方改革」を問う。</p>